

事業報告

令和3年度

社会福祉法人 あかりの家

2021(R.3)年度

障害者支援施設 あかりの家 事業報告書

2022. 3. 31 現在

2021(R.3)年度 障害者支援施設 あかりの家 実施事業

事業名		事業開始年月日		
①	障害者支援施設あかりの家	'86(S.61). 4. 1	県指定	
	施設入所 生活介護			
②	短期入所	'86(S.61). 9. 1	県指定	
③	地域生活支援事業 日中一時支援事業(日中短期)	'07(H.19). 4. 1	6市2町委託事業	
④	障害児等療育支援事業	兵庫県	'07(H.19). 4. 1	県委託事業
		姫路市	'08(H.20). 4. 1	姫路市委託事業
⑤	被虐待障害者一時保護支援業務	高砂市	'13(H.25). 6. 1	高砂市委託事業
		播磨町	'14(H.26). 4. 1	播磨町委託事業
		稲美町	'17(H.29). 3. 1	稲美町委託事業
⑦	強度行動障害地域生活支援事業	兵庫県	'19(R.元). 10. 1	県委託事業

<他>①グループホーム「希望山荘日笠」('02(H.14).10.1)「オリーブの家」('15(H.27).10.1)「友愛の家」('17(H.29).4.1)の連携施設

②連携施設「友愛の家」('17(H.29).4.1)との一体的な運営

③ 附置施設「ひょうご発達障害者支援センター クローバー」('03(H.15)12. 1)

④わかば学園(加古川)グループホーム連携施設('12(H.24). 2)

⑤高砂市福祉避難所の指定に関する協定('14(H.26). 11)

⑥日本自閉症スペクトラム学会 資格認定実習施設('15(H.27). 1)

I 利用者状況('22年3月31日現在)

あかりの家利用契約者の分類(あかりの家独自の分類)

		呼称	
あかりの家 所属利用者	①入所者		日中は生活介護、WHIに通う1名は生活介護と就労B併給(行政調整有)
	②通所者	生活 介護	⑥通所 ⑦ロングショート等は、行政と調整の上、夜はショート、日中は生活介護で契約。あかりの家に所属。通所者として扱い、保護者会活動に参加。
あかりの家 所属とはし ない利用 者	③ショート生活介護		ショートステイか日中利用者の内、有期の療育目的や定期的な日中利用等のケースは、行政と調整し、泊はショート、日中は生活介護などとして契約しているところは上の⑦と同じであるが、保護者会活動などに参加しない利用者は、あかりの家所属とはせず、「ショート生活介護」としている。
	④ショートステイ		泊を伴う
	⑤日中一時		日中のみ

以下のデータは、「あかりの家に所属」の、上記①、②の利用者を対象とする。

1 定員と現員 2022年3月31日現在

定員	現 員		
40名	施設入所	40名 (男31、女9)	
	生活介護 (①+②)	47名 (男38、女9)	入所者 40 (男31、女9) 通所者 7 (男7、女0) 通所者内訳 ; 自宅から1、GH 友愛の家から5、ショート系⑦1

内、入所利用者1名は、あかりの家の「生活介護」に籍を残したまま、日中はWH 高砂の「就労B」を利用。生活介護利用者は、47名とあるが、1日当たり40名を超えることはない。

なお、「ショート生活介護 (③)」契約者はここではカウントしていない。3月末現在、該当契約者3人。

2 利用者出身地(受給者証発行市町) 2022年3月31日現在

実施機関	利用者数		実施機関	利用者数	
	入所者	通所者		入所者	通所者
高砂市	4	3	神戸市	11	
加古川市	13	1	尼崎市	2	
播磨町	3	1	名古屋市	1	
姫路市	5		枚方市		1
小野市	1		神河町		1
加東市	1		合計	40	7

左表ではカウントしていない、あかりの家に籍を置かない生活介護契約者(分類の③「ショート生活介護」) ‘22年3月末現在、3名(加古川市、姫路市、東京都)

3 利用者年齢 ()は、通所者で内書 2022年3月31日現在

年齢	10代			20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		合計 (人)
	~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	~54	~59	~64	~69			
男	0	0	1(1)	2(1)	4(2)	2(1)	8	16(2)	4	1	0		38(7)	
女	0	0	0	1	0	0	2	3	2	0	1		9	
合計 (計)	0	0	1(1)	3(1)	4(2)	2(1)	10	19(2)	6	1	1		47(7)	
	0		1(1)		7(3)		12(1)		25(2)		2		47(7)	

最年少26歳、最年長67歳、平均48.4歳 (入所利用者平均年齢49.9歳)

4 障害等の程度 ()は通所者で内書 2022年3月31日現在

(1)知的障害の程度(「療育手帳」の判定による)

	重度(A)	中度(B ₁)	軽度(B ₂)	合計(人)
男	37(7)	1	0	38(7)
女	9	0	0	9
計	46(7)	1	0	47(7)
比率	97.9%	2.1%	0%	100%

(2)障害支援区分 平均支援区分 5.64

	区分6	区分5	区分4	区分3	合計(人)
男	29(4)	5(1)	4(2)	0	38(7)
女	5	4	0	0	9
計	34(4)	9(1)	4(2)	0	47(7)
比率	72.3%	19.2%	8.5%	0%	100%

(3)自閉症または自閉的傾向を有する者

	男	女	計
入所	30名/31名	5名/9名	35名/40名
通所	7名/7名	0名/0名	7名/7名
合計	37(7)人/38(7)人中	5人/9人中	42(7)人/47(7)人中
比率	97.4%	55.6%	89.4%

(4) 重度加算

	入所		通所		総計
男	30人	96.8%	5人	62.5%	88%
女	9人	100%	—	—	

(5) その他の障害

		男	女	計	総計
肢 体	手帳所持	0	0	0	1
	不所持	1	0	1	

5 入退所の状況(あかりの家在籍者)

	年度	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	00	01	02	03	04
入 所	入	3	5	5	4	5	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	退	1	7	2	5	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
通 所	入	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	11	0	0	1	/	/
	退	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0	0	0	12	/	/
合 計	入	3	5	5	4	5	2	0	1	0	0	0	0	0	11	0	0	1	0	2
	退	1	7	2	5	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	2

	年度	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	計
入 所	入	1	1	1	0	2	1	0	2	0	0	0	0	3	0	1	0	1	74
	退	1	2	0	1	1	1	1	1	0	0	0	1	2	1	0	0	1	34
通 所	入	/	/	/	1	0	1	0	2	3	0	1	0	4	1	0	0	0	25
	退	/	/	/	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	1	16
合 計	入	1	1	1	1	2	2	0	4	3	0	1	0	6	1	1	0	1	99
	退	1	2	0	1	1	2	1	1	0	1	1	1	3	1	0	0	2	50

※①1986年4月 あかりの家開所'

②1999年4月 四郷分場開所、閉所WH閉所に伴い2003年3月(形式上、分場利用者退所)

③2008年4月 新体系に移行し、通所利用者受入れ

④2013年4月より、あかりの家に籍を置く日中を生活介護契約の短期入所利用者等は、通所者として計上

⑤2017年4月 GH友愛の家開所

6 在籍年数 (通所者を含む。通所から入所等への移行者は通算。4/1 入所は翌年3/31 で在籍満1年とする)

全利用者平均在所年数26.0年 / 男子平均年数25.9年 / 女子平均年数26.4年

入所者平均在所年数 28.4年 / 入所男平均年数29.0年 / 入所女平均年数26.4年

通所者平均在所年数 12.3年 / 通所男平均年数 12.3年 / 通所女平均年数 — 年

Ⅱ 生活の概況

1 日課(月～金)

	6:30	起床
	8:00	朝食
	8:30	歯磨き、清掃(引継ぎ)
	(9:15)	職員引継ぎ
*	10:00	ランニング、お茶等水分補給
	10:30	作業
	12:00	昼食
	13:30	作業
	15:15	ティータイム
	15:30	入浴(毎日)・自由時間
	17:30	夕食
	21:00	就寝

土日祝、ランニングや作業なし
 非帰省日の土曜日にはクラブ活動実施
 隔週で、週末帰省日設定(希望者)
 昨年度はコロナ禍で中止

2 余暇活動

- ①夜の時間帯 絵描き、工作、パズル、雑誌、ドリル等の学習、トモニ100並べ、クロスステッチなど
- ②担当者による任意の買物や散髪、作業工賃での自販機やコンビニでの買物、テイクアウトの購入など
- ③祝祭日や週末など、休日のドライブや散歩などの外出

3 療育活動

(1)学習活動

2013年度より実施。当初はトモニ活動チーム4人を中心に活動。トモニ療育研修で、河島先生・高橋先生から教えて頂いたことを日常の中で実践。主に数字(100並べ、タイル並べ)、時計、お金、本読み、漢字、折り紙、書き取り等、月曜日と木曜日の午後に、マンツーマンでの課題学習を行う。

2021年度は月曜日にOさんとKさん、木曜日にAさんを対象に通年で活動してきた。トモニ療育研修のない中で、課題の突破や展開が難しくなっている。

次年度以降、トモニ療育研修と連携し、トモニに触れてこなかった世代の実践の場として活動を考えていく必要がある。

(2)料理活動

従来、トモニ活動の一環として料理活動を実施していたが、独立した活動としている。

あかり祭りや忘年会などの行事料理や、バレンタインデーなどのお菓子作り、休日の余暇活動の中での料理作りなどの活動をしていたが、今年度も新型コロナウイルスの影響で、そのような活動が自粛となった。

(3)体操活動

隔週土曜日 13:30～15:00 に活動。ダイナミックリズム(DR)や模倣運動を中心に実施。療育的な意味に加え、職員育成、特に新人職員研修を狙っている。現場において集団全体を見る力をつける機会としても考えている。目の前で、利用者の変化を実感しやすい活動になっている。

今年度も新型コロナウイルス感染防止の観点から活動を中止していた。(密になることや公民館への移動のリスクを考慮して)

4 クラブ活動

	参加者	実施状況	指導者	実施内容
華道	5人	月2回 隔週、土曜 午前1時間	松尾豊華先生(ボランティア)	92年10月開始。松尾先生(小原流家元)購入の花を先生指導のもと活ける。活けた花は玄関や交流ホーム、クローバー、事務所等に飾る。 (新型コロナウイルスの影響で年間を通じて中止)

音楽	8人 + 随時	月1回 (8月は休み) 土曜 or 日曜 13:30~1時間	永江きよみ 先生 (ボラ ンティア)	98年10月開始。音楽療法として「音楽の特性を生かして、心と心を響かせあう。」宮本啓子音楽療法を勉強中の永江先生が中心になって始まる。ダンス、歌、リズムなど体感するものや楽器等を通じて表現するものなど幅広い。 (新型コロナウイルスの影響で年間を通じて中止)
アート	3人	月1回 木曜日 午後1時間	安部武先生 (ボランティ ア)	99年1月開始。粘土、自由絵、また季節的な風作り・面作りなどの創作活動を実施。高砂市美術展、洋画家連合会などに出席。交流ホーム1F(04.10より)をアトリエとして使用。 (新型コロナウイルスの影響で年間を通じて中止)

5 行事関係

(1)一般行事(スポーツ行事を含む主な行事)

月	行事名	月	行事名
5	のじぎくスポーツ大会(コロナの影響で中止)	11	加古川ツーデーマーチ(コロナの影響で中止)
	ばんたん親善運動会(コロナの影響で中止)		ばんたんゆうあい文化祭(コロナの影響で中止)
8	あかりまつり(コロナの影響で中止)	12	高砂マラソン(コロナの影響で中止)
10	親子一泊旅行(コロナの影響で中止)		第29回ナイスハートバザール(高砂アスパ)実施
		1	もちつき会(コロナの影響で中止)

(2)グループ別小旅行「レインボーデイ」

小グループ(原則利用者2人に支援員2人)に分け、各担当の企画で県内外を日帰り旅行。「療育の成果を生活に返していく」趣旨で、原則公共交通機関(電車、バス)を使用して実施。身体に負担のかかる利用者は公用車利用。(新型コロナウイルスの影響で年間を通じて中止)

代替行事として、「棟別お食事会」を企画・実施。感染予防には十分に配慮したうえで小グループでの食事会を行った。友愛の家に移動したりして特別感を演出した。テイクアウトだけでなく、職員が料理を作る過程を全員で見て楽しみ、実際に味わった。

(3)あかり喫茶

帰省日のない最終金曜日午後、ボランティアグループ秋桜会(5、6人)の応援で、毎月実施。随時グループで参加。写真で飲み物(コーヒーやジュース、コーラ等)を選び、ケーキ類も数種類から選ぶ。今年度も新型コロナウイルスの影響で年間を通じてボランティアの協力は得ず、内部で実施。

6 設定帰省等

保護者会の希望により、開設時から毎週末2泊3日実施。3年目途中より隔週2泊3日帰省に変更、その後、05年度より隔週1泊2日となる。原則、帰省は希望により自由、期末帰省を更に短くした。

①週末帰省(隔週末1泊2日原則) 2泊帰省4人程度、帰省なし11人程度

②期末帰省(夏季5日間、冬季7日間、春季5日間) 期末帰省なし11人

2021年度は新型コロナウイルスの影響で、原則 3/29~4/3、7/17・18、8/11~15、10/9・10、11/6・7、12/4・5、12/27~1/3、3/29~4/3の帰省となった。

7 生活環境の整備、備品等の購入設置

- (1)環境整備(草刈り);新型コロナウイルスの影響で、保護者会協力のもと行う形は中止し、職員が随時実施
- (2)設備品の購入、設置工事;軽車両(車いす対応車)購入、居室棟 Wi-Fi 設置工事

Ⅲ 作業の概況

1 作業内容(月曜日午後、火曜日から金曜日の午前午後作業)利用者40名 通所7名 計47名

(1)施設内作業・3月末現在(4作業種34人)

割り箸班	8人	軽作業棟。割り箸の袋詰め等。(株)マスキ 作業提供。
------	----	----------------------------

さをり織り班	7人	さをり作業棟。さをり糸(一部播州糸、帆布糸)を利用して反物織り。製品化は、さをり製品化ボランティア「さをりの会」(保護者)や職員による。
軽作業班	9人 (14人)	軽作業棟。コイルから銅線の巻取り、リサイクル作業。(有)ハタリサイクルファクトリー作業提供。 ()の人数は旭班の利用者数を含む。
プラグ班	10人 (11人)	さをり作業棟で開始。電気部品組み立て。(コンタクト、ロックレバー、端子台、受け金、ホルダー など)(有)米田製作所作業提供。2013年6月～ ()の人数は旭班の利用者数を含む。

(2)施設外作業・3月末現在(3作業種13人)

マスク班	5人	新型コロナウイルスの影響で年間を通じて(株)マスクの工場の一室を借りることを止め、割り箸袋詰め等の作業をあかりの家地域交流ホームの一室で実施。
旭班	6人	(株)旭運送プロジェクト事業部内で、ライン作業の下準備等の作業。2016年11月～ (新型コロナウイルスの影響で年間を通じて中止)
WH高砂	2人	WH利用者として、クリーニング作業に従事。1人が毎日車で送迎(就労継続B型)、1人が週3回グループホームより通所(生活介護)

2 作業班強化

(1)作業班整備

【旭班】

2016年11月より旭班として立ち上げ。(株)旭運送プロジェクト事業部内にて、ライン作業の下準備の作業を行っている。室内作業による作業環境の改善、作業内容としても箱折り、のし折り、ダイレクトメールの宛名はり、サンプル商品の袋詰めなど多様な作業内容を行っている中、一般企業との連携という意識を強く持ち、ミスなく作業に取り組めるように環境整備や、作業工程の見直しなどを随時行いながら取り組んでいる。

2019年12月より、職員数不足の関係と新型コロナウイルスの影響で中止している。

(2)生産、報酬、消費サイクルの展開

工賃を消費サイクル(労働→報酬→消費)に乗せるための活動。形態は、作業班毎に工夫。(班毎に、あるいは個別に、コーヒーのマグネットをトークン、出来高制、特別ボーナスなど)

(3)作業班編成(利用者編成)

利用者の高齢化および体調面への配慮、また作業ノルマや作業種別に応じて作業メンバーをその都度変更。体調面への配慮としては、利用者個別判断が必要であり、暑さ、寒さ、アレルギーなどへの配慮を考えつつも、より利用者が意欲的に活動できる作業提供を考え実施している。

※ 日中活動として47名の利用者が作業を行っている。加えて短期入所、日中一時支援の利用者を加えると50名程度の利用者が活動する状況であり、現状の環境下では各作業場が飽和状態である。

3 福祉バザー、作業製品展示・販売等

12/11.12	第30回 あかりの家 ナイスハートバザール	イオン高砂	さをり織り商品の販売。コロナにより、実演と見学中止。
----------	--------------------------	-------	----------------------------

4 作業収入と工賃支給 (2022年 3月末)

作業収入;計954,643円…内、工賃支給;計859,140円、軍手、工具等の直接経費93,339円

作業工賃基準…1人18,000円/年支給。但し、プラグ作業1H延長組24,000円/年

※作業工賃基準→1,500円/月 プラグ作業延1H延長組2,000円/月 2H延長組2,200円/月

Ⅳ 健康管理

1 入院の状況

科名	通院		入院	
	延人数	延日数	件数	延日数
内科	113	160	0	0
外科	10	18	0	0
整形外科	32	41	1	24
歯科	392	424	0	0
眼科	20	29	1	2
皮膚科	95	105	2	23
耳鼻科	28	32	0	0
精神科	62	89	0	0
婦人科	1	1	0	0
肛門科	26	26	0	0
泌尿器科	18	22	0	0
その他	36	44	1	4
計	833	991	5	53

通院については、月ごとの集計を単純加算。従って、月をまたいだ通院は二重カウントの形になり「延人数」として表記。

入院は、把握可能なため二重カウントはなく、「件数」として表記。

<精神科通院>は、幼少期からの主治医に保護者によって通院することが原則(嘱託医の方針)。保護者の高齢化により園から通院することが、多くなってきた。

さらに新型コロナの影響で園からの通院が増えた。

2 常用服薬者

		男	女	計
精神科薬	てんかん	16	3	19
	安定剤・眠剤等	20	8	28
内科系薬(整腸・肝臓・貧血、便秘等)		25	9	34
皮膚科系薬(水虫・湿疹等)		18	4	22
整形外科系薬(Ca剤・骨粗しょう症等)		2	1	3
眼科系薬(アレルギー)		9	1	10
延べ総計(2重カウントあり)		90	26	116

内科系では、24人が便秘薬を服用。

3 健康診断・身体測定等

月	実施内容	月	実施内容
4	体重測定、歯科(歯石除去、歯磨き)	10	体重測定、歯科(歯石除去、歯磨き)
5	体重測定、歯科検診中止	11	体重測定、歯科(歯石除去、歯磨き)
6	体重測定、歯科検診中止	12	体重測定、歯科(歯石除去、歯磨き)
7	体重測定、歯科検診(歯石除去、歯磨き) 健康診断(利用者と職員)	1	体重測定、歯科(歯石除去、歯磨き) 健康診断(変則勤務職員)
8	体重測定、歯科(歯石除去、歯磨き)	2	体重測定、歯科検診中止
9	体重測定、歯科検診中止	3	体重測定、歯科(歯石除去、歯磨き)

健康診断;R2年度から利用者の健診も7月に変更。あかりの家にて実施(加古川総合保健センター) 検診科目(身長、体重、腹囲、血圧、尿、胸部レントゲン、採血、心電図、内診)

4 ランニング

月～金、朝の引継ぎ後(作業前)、10時頃から10時20分頃まで、準備体操、ランニング、お茶飲み実施。ランニングが負担になる人は、運動場をウォーキング。夏季は、気温が高温になっている為、準備体操、ランニングは中止している。(熱中症対策の為)

5 ウォーキング班・ダイエット班(1F企画日課)

班活動としては休止。ただ、随時ウォーキングマシンを利用したり、裏山のぼりは継続している。

6 整体(健康・医療の方向から)

毎週木曜日、居室にて13:30から1名10分～15分程度、腰痛の人や筋緊張の高い人などを中心に6人が、永田雄三先生(柔道整復師)にマッサージをしてもらっている。Ⅵ1の(5)参照(新型コロナウイルスの影響で年間を通じて中止)

7 その他、11/22 インフルエンザ予防接種。新型コロナの影響もあり、全員接種をもらった。罹患者0人。今年度も、ノロウイルスに感染することはなかった。

V 支援部・調理部からの年度総括

<1Fフロアー>

1 利用者

・入所者21名、通所3名の合計23名の利用者所属でスタートした。4月末に利用者が1名退所、12月に利用者が2Fから1Fに1名移動、1月末に通所利用者が1名退所、3月に利用者1名が骨折をし入院をしている。3月末の時点で、入所者21名(内入院1名)、通所2名で年度末を迎えた。

・今年度もコロナウイルスの感染予防対策の徹底により、帰省が月1回出来ない時もあった。様々な行事も中止になる中、現状を維持すること、コロナ禍でも利用者が大きく状態を崩すことがないように支援を主に意識して運営を行った。帰省関係でのトラブルなどが予想されたが、皆が同じように帰省しないことで、集団の意識としてそれが当然のように維持できた。支援面でも帰省変更の伝え方などを統一し、ある程度の見通しを残して伝えることが、結果としては良かったのではないかと評価している。

・骨粗鬆症、嚥下や咀嚼、高齢化への介護的な支援が徐々に必要となってきた。(継続課題)

2 職員

新任を2名迎え、女性12名(内1名怪我により休職中)、男性2名の14名でスタートした。5月に妊娠による休職者で1名。6月に怪我で休職していた職員が復帰。8月に体調面での休職者が1名。10月に産休で1名。1月に8月から休職していた職員が復帰と2Fから支援員が1名移動。3月末に1名退職。3月末時点で女性14名(内育休2名)男性2名。職員数が変動し、人数が足りない中でも、協力し合いフロアを運営していった。

3 主な活動内容

<余暇活動>

コロナ禍ということと、職員数が少ない状況の為、例年に比べると活動が少なくなったが、祝日にはデザート作りやBBQを行ったり、個別に作品作りを行ったりと、あかりの家でも楽しめることを考えて実施。また、帰省ができないことに加え、外出の制限により散髪などにも行けなかった為、あかりの家で散髪も実施させてもらった。

4 総括と来年度に向けた課題

今年度は4月当初より職員が減ったことで、フロアを回していくのが精いっぱい状況だった。コロナ禍にも慣れてしまい、できる事を探すという事もできていなかったが、職員数の減少で余裕がなかったのも正直なところもある。次年度は色々な動きを作っていけたらと思う。
(1Fフロア長 中西 多美)

<2Fフロアー>

1 利用者関係(次年度に向けて)

(1)今年度の課題と現在進行形の取り組み等

・Aさん(強度事業対象者)

2021年11月から1月末まで受け入れ。強度事業で神戸市内に暮らす行動障害(破衣・自傷・他害等)がある利用者男性を受け入れ。強度チーム(前阪・神戸・土井・安東)を結成して、チームを中心に支援を展開していった。コロナの影響もあり、スケジュール変更が度々行われた。その中でも、Aさんは、大きく状態を落すことなく過ごせた。

家庭での様子にしても、電車に再び乗れるようになったり、家庭での物損が無くなるなど、成果も見られた。

一番の課題であった家庭での暴力に関しては、継続課題であるが、ヘルパー支援等を通して、必要なサービスを受け、家庭生活を維持していく事を確認している。

今後、月1回程度あかりの家でのショートステイ利用もあるので、状態把握しながら、その都度、必要な支援、家庭へのアドバイスを検討していきたい。

2 2021年度2Fフロアを振り返って

(1)職員の育ち

2年目職員4名の育ちが今後のあかりの将来に大きく影響を与えている。

利用者担当も、あえてチャレンジした。数年後、この利用者担当をして、良い経験になったという1年にして欲しいという思いで取り組みをスタートした。

2年目職員の育ちの総括として、2022年2月の療育研修で取り上げた。各職員確実に育ってきていると捉えている。また、各ケースと職員自身の具体的な課題も浮き彫りになった。

(2)コロナ対策

コロナ対策として、職員数名が感染したものの、利用者は感染することが無かった。今後もコロナ禍は続いていくので、基本的な感染対策を行いつつ、今の時世にあった過ごし方を検討していきたい。また、防護服の適切な着脱など、有事に備え、出来る事はしっかり行っていきたい。

3 総括と来年度に向けての課題

2年目の職員の育ちにスポットを当て、1年間継続して取り組む事が出来た事は、大きな収穫であった。来年度も、今回のかかたつ療育研修で明らかになった具体的な課題を解決していきたい。利用者の取り組みを通して、職員が育っていくというあかりの家の原点を意識出来た1年であった。
(2Fフロア長 神戸 孝大)

<医務室>

1 健康診断(年1回)

再検が必要な利用者には協力医院である井野病院で、血液検査やCT検査、心電図等を受け、結果は必ず保護者に説明している。

今年度は肝機能障害10名(てんかんの薬の影響や経過観察)、脂質異常2名(大きな異常なく、経過観察)、心電図異常5名(大きな異常なく、経過観察)、貧血6名(うち2名内服、1名注射治療中、他は経過観察)、胸部レントゲン異常5名(経過観察)であった。

2 日々の健康観察

丁寧な健康観察は、利用者の体の変化に早く気づき、回復を早める。また、園内感染も最小限に防ぐ。新型コロナウイルス感染症対策として、体温測定回数を増やすなど異常の早期発見に努めた。

3 感染症予防

今年度、インフルエンザ予防接種は全員実施。新型コロナワクチンも1名を除き、3回目まで接種済み。新型コロナウイルス感染症対策として、手洗い、消毒、換気やマスク着用の徹底に全職員で取り組んでいる。さらに職員はフェイスシールドを常時着用して感染防止強化に努めた。その効果もあってか、新型コロナ感染者、インフルエンザ感染者ともに0名であった。

4 歯科検診

園でも朝、昼、夕の食後には一人ひとり丁寧に歯磨きを実施している。

毎月実施していた歯科検診であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で今年度は4月、7月、8月、10月、11月、12月、1月、3月の8回の実施となった。そのような中でも治療が必要な方や異常が起きやすい方を優先して通院したり、日々の歯磨き強化をしてもらい、口腔内の健康維持に努めた。

5 痔、腰痛対策

痔対策は予防としての便秘対策も含め、悪化防止に努めていく。

腰痛の方も数名通院したが、現状、治療はないため予防に取り組んでいく。(冷やさない、正しい姿勢の保持等)

6 骨密度測定実施

今年度も骨折者が数名。骨粗鬆症を指摘されていた方ではないが、今後も加齢に伴って増える可能性がある。異常がない方も定期的に骨密度を測定して、予防に努めていく。

骨粗鬆症治療中(注射や内服薬)の4名に関しては、定期的に骨密度測定を実施し改善傾向である。

7 排便対策

精神科の薬を内服している方が多いため便秘が多い。今年度は新型コロナ対策の影響で活動量も減ったため、さらに悪化した方もいる。利用者によっては便秘薬を内服していても排便がない方、薬の効きすぎで下痢になる方もいる。便秘や下痢はQOLの低下につながるため、毎日排便記録をとり、便秘や下痢の際は主治医の指示の範囲内で薬の増減を行った。また、厨房と相談し、少量のオリーブオイルを味噌汁などに入れて、毎日摂取してもらった。
(看護師 川西)

<調理部>

1 令和3年度施設目標「利用者個々の健康維持増進に配慮した安心で安全な給食提供」

2 実施内容

(1) 年間実施食数

	利用者	ショート	友愛	職員	総食数
全月計	55,302	3,209	3,649	7,364	69,524
月平均	4,668	267	304	613	5,793

(2) 栄養ケアマネジメント

対象者	実施期間	モニタリング実施
利用者 40名	通年	6月、9月、12月、3月

(3) 衛生

①東洋産業害虫駆除毎月1回、②消毒年3回、検便毎月1回

(4) 防災

①自主点検 終業時毎日実施

②災害用食材(非常食・飲料水・備品)3日分を外倉庫に備蓄

(5)その他

価格調査2月実施

3 業務取り組み内容

①行事食(秋祭り、節分、ひな祭り等)

④栄 ④厨房会議(月1回)

②手作りおやつ 毎水、日曜日提供

⑤給食会議(8月、12月、3月)

③栄養ケアマネジメント

⑥お楽しみメニュー

4 総括、今後の課題

・前期は怪我の為、約1か月半1名休職になり4人でのスタートとなったが協力しながら給食提供することが出来た。

・コロナ感染防止の為、今年度も行事はできなかったが行事食、お楽しみメニューで利用者さんに季節や外食を感じていただけるような献立を取り入れた。

・中期は災害を想定して災害食訓練を試みたが改善点がたくさんあり、指揮できる人、職員が少ない時の対応、運搬、備蓄の情報共有をできるようにして行きたい。

・後期は利用者さんの便秘対策でオリーブオイル、繊維の食材等取り入れているが効果はまだ見られていないので利用者さんの活動(運動)等も併せて他部署との連携で利用者さんの健康維持に努めたい。

・業務は早日遅の勤務体制で各自こなせるようになり、栄養士2人も役割分担ができています。

来期は促し、指示でなく各自が自分で考え発信していけるように取り組んで行きたい。

・今年度も一部で食材の価格が上がり、来期は全体に値上がりをするので(給食費も検討)食材の仕入れ、献立を見直し工夫を凝らして、出来るだけ質を落とさないようにして行きたい。(調理部主任 内藤 貴美)

VI 職員研修

1 支援員研修

(1)第28回あかりの家事例研究会(11/7(日)10時~12時 ZOOMによるリモート研修)

講師(助言者)ノートルダム清心女子大学人間生活学部児童学科准教授

インクルーシブ教育研究センター長 青山新吾先生

10:00~10:20 あかりの家の現在地

10:20~11:15 あかりの家の日中活動

11:15~12:00 中堅職員研修「私たちの目指すあかりの家」

事後研修として、あくまでも自己研修の位置づけで事例研究会事後レポート作成。提出者分のレポートについては青山先生へ送付した。

年度末(2022年3月30日)研究会用冊子の発行(60部)

<研修内容詳細>

①あかりの家の現在地

あかりの家の療育的歴史をまとめ、現状を把握した上で必要な支援を模索(資料作成:川田支援員)

②あかりの家の日中活動

①のまとめから、改めて日中活動にポイントを絞ってあかりの家支援を見つめ直す。

(日中活動に関するキーワード集+支援部による日中活動に関するレポート)

③中堅職員研修「私たちの目指すあかりの家」

パワーポイントを使用し、中堅職員がプレゼンテーションを行った。

(私たちの目指すあかりの家:中堅職員研修より)

(2)学習会・相談日(囑託医平井先生による。週末帰宅の土曜日午後3時間の支援員研修)

①	4/17(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
②	5/15(土)	平井 Dr.	クローバー
③	6/12(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
④	7/24(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
⑤	8/2(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
⑥	9/18(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
⑦	10/16(土)	平井 Dr.	クローバー
⑧	11/13(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
⑨	12/11(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
⑩	1/22(土)	平井 Dr.	クローバー
⑪	2/19(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談
⑫	3/5(土)	平井 Dr.	利用者に関する療育相談

(3)かくたつ療育研修 (2000年10月開始)

スーパーバイザー：(有)かくたつグループ代表取締役 片倉厚子先生

① 第1回 9/26 リモート研修

- ・「維持と、つなぐ」中堅・若手職員の成長と育ちをテーマに1Fが発表

※外部参加:三気の家、三気の里、麦の子会

② 第2回 2/27 リモート研修

- ・「2年目の育ち」をテーマに2Fが発表

- ・第1回の研修を受けて取り組んだことを1Fが発表

※外部参加:三気の里、三気の家、麦の子会、

事前に資料を作成し片倉先生に送付。当日、ケース会議を行い、日常の支援に活かすポイントやエッセンスを学ぶ。その後、利用者把握で参加できなかった支援員には、参加支援員から説明。

研修終了後、各支援員は「研修を終えて(①療育のポイントと感じたこと②質問等)」のレポートを提出。後日、片倉先生から質問等に対するコメントをいただく。

リモート研修になったことで、麦の子会の研修、三気の家、三気の里の研修にも参加している。

(4)トモニ療育研修 (2010年11月開始)

2010年11月、トモニ療育センター(愛媛県)河島淳子先生・高橋知恵子先生を、講師招聘内部研修としてお招きしたのをきっかけに、2011年よりトモニ療育研修として実施してきた。

2020年、新型コロナウイルスが猛威を振るう中、2年連続での見送りは避けたいとの思いで河島先生に「オンライン研修」を依頼。しかし、「リモートでは、本当に大切な所が伝わるとは思えない」との返事を頂き、更に「一応完結している。十分にやってきた」「これからは皆さんが本物になっていく」とのお言葉を頂き、一つの区切りを迎えた。

2021年度についてはトモニ展開検討として、今後のトモニ活動の在り方を検討。具体的な動きは取れなかったが、①研修に触れてこなかった世代へどうやって伝えていくか②これまで教えて頂いた事を磨いていく、という方向の活動をしていくことを確認。

(5)整体(研修の方向から)

<経過> 2007,2008 年度の講師招聘研修に来ていただいた永田雄三先生(柔道整復師)の往診(毎週木曜日午後)を、職員研修として位置づけ。2017年度には、事例研究会でも整体を取り上げ、支援部全体に整体の知識を学ぶ機会があった。利用者が生活しやすいようになるための身体の動かし方や日常に取り入れられる働きかけのノウハウや、そのヒントを得る。そして、それを各担当者や各フロアにつなげ、実践していく。利用者との関わり方を広げる、関わり方の知識をつけるために、若手職員(1~3年目)を中心に学ぶようにしている。主に担当ケースを取り上げて診てもらいつつ、学んだことを現場でも活かせるように係から話している。

<今年度> 新型コロナウイルスの影響で、今年度も再開できなかったが、再開の目途が立ち次第、永田先生と相談し、再開の予定。整体の係の職員の中には、整体に未だ参加したことのない職員もいるため、レクチャー含め、整体の係でない若手職員にも整体の意義と身体への触れ方を学んでもらう予定。

(6) 中堅職員研修

2020年に作成された“あかりの家 キャリアパス”を基にしながら研修を展開した。中堅層に求められる役割をおさえつつ、「職員が働きやすい環境をひとつ以上つくる」をテーマに掲げ、中堅職員6名で年間通して実施した。自分たちで考える仕組み作りや、期限を設けて取り組みを組み立てて評価する流れを実感してもらった。それぞれに中堅としての役割意識が芽生えたと評価している。

(7) 課題検討委員会

1. 感染症対策委員会

新型コロナウイルス感染拡大を受け、2020年度3月、新型コロナウイルス感染症対策委員会を新設。

2021年度に感染症対策委員会に改称。

<委員>〇川西Ns、坊垣施設長、長谷川副施設長、藤原事務局長、亀山、中西、神戸

<主な活動>

2020年度は感染者0名であったが、2021年度は4名の職員の感染（8月：1名、2022年1月：1名、2月：2名）、利用者は0人。

健康福祉事務所の指示等に基づき、自宅等で一定期間の静養後、再出勤。また、家族の感染が数件あり、濃厚接触者として自宅経過観察後、再出勤。家族の発熱時においても、PCR検査等の実施を推奨し、陰性が確認されてから出勤する形態を通年行った。また、1月の法人感染症対策研修での高砂市民病院感染症管理認定看護師 中島博美氏の多くの感染現場に携われたアドバイスは、対策の具体化につながった。

①感染予防への取り組み推進

(ア) 玄関に手洗い場を新設。出勤時、手洗い、手指消毒、検温後に入室を徹底。

(イ) 特に感染しやすい場面として、①食事支援、②歯磨き支援、③入浴支援など、利用者がマスクを外されている場面での対応に留意した。感染防止は元より、濃厚接触者にも該当しないようマスクに加え、フェイスシールドを日常的に着用して支援に当たった。食堂での感染防止の為、毎日各食事前に検温し、発熱者等が集団での食事に入ることがないように努めた。

オミクロン株流行後、午後の作業は取りやめ、少人数での入浴を行う日課に切り替えた。

(ウ) 職員は利用者と一緒に食事は行わず、別の場所で黙食。

(エ) 利用者のマスク着用について、一部課題が残る方がおられるものの100%の着用。

マスク非着用の時間を最小限に努め、入浴後も脱衣場で着用してからフロアーへ移動。

②感染防止対応マニュアルの改訂（予防的取り組み、職員・家族に発熱等が見られた場合の対応の基準検討、感染者が出た場合のゾーニング他）

③利用者の帰省及び外部者（ショートステイ、業者など）の利用についての判断（坊垣施設長、亀山他）

④オンライン面会の開催および長期休み実施・期間などの検討

帰省のない利用者にはオンライン面会を2回実施（7月、11月）

⑤感染対策、感染状況などの発信（新聞記事他）

<評価>

2020年度同様、あかりの家で感染者が発生すると、クラスター化する可能性が高い危機意識を念頭に1年間、活動を行った。

初めて職員の感染が発生したものの、感染が拡大することはなかった。

利用者の感染は、感染流行時から0名を維持している。

8月発生時に、感染症対策委員会が中心となり、迅速に①あかりの家内での対応検討（利用者の日課、生活環境、感染拡大対策）、②外部との連絡調整を行えたことが以降の軸となり、収穫であった。

予防では2回目、3回目のワクチン接種の日程調整を高砂市と迅速に行った。

利用者の隔週帰省は年間で4回と縮小を継続。「持ち込むのは職員、外部の可能性が高い」ことから職員の予防呼びかけ、ショートステイの利用の縮小（各フロアー1名、日中一時は各2名）、緊急事態宣言の発令時等は利用も控えていただく等の対応を継続した。

2020年度、事務局主導で食堂の飛沫防止シールドや網戸全居室取り付け、交流ホーム横に感染者用の部屋（コンテナ）や玄関に手洗い場の設置など大規模なハード面での整備の効果も大きい。

オミクロン株の感染拡大により、圏域内の施設の感染発覚が多数見られている。今後一番のキーは、「私も感染しているかもしれない事を念頭に行動する」こと、日常の感染対策である。

ここまでくれば、利用者の感染は0人で乗り切りたい。

(8)出張研修 (主なもの、オンライン含む)

月	研修内容(実質研修期間)	研修地	参加者
9	サービス管理責任者研修	Web	神戸、原谷
10~	県知協・強度行動障害SV養成講座(4回)	姫路	土井
11	障害者虐待防止対策研修	高砂	前阪、宮本
12	全日本自閉症支援者協会滋賀大会	Web	坊垣、亀山、尾崎、中西

2 新任職員研修(支援員)

(1)内部研修 (新任研修プログラムによる年間研修)

月	研修内容
4	各部署レクチャー実施(部長、事務、医務、調理、防災、各作業班、給食保険衛生部会長レク)。女性職員は旭班・マスク班以外はレクチャー3回実施。男性支援員はさをり班以外3回レクチャー実施。“基礎体力をつける”のデータを渡した。
5	“基礎体力をつける”のレポートを提出。
6~3	保護者通信「あかりっこ」作成(新任支援員で持ちまわり)
8	期末レポート(自分の課題と質問)
6~2	課題レポート
10	青山先生のDVDを見る。レポート作成。
12	期末レポート(自分の課題と質問)
2	相談日実施
3	新任研修終了レポート(学んだこと、これからの意気込み)
通年	あかりの家に届く施設だよりの回覧。

3 保健衛生関係研修(主なもの)

月	研修内容	研修地	参加者
1	感染症対策研修 (講師:高砂市民病院 感染管理認定看護師 中島 氏)	あかりの家	全職員

4 運営・管理・経営・事務的な研修(主なもの)

月	研修内容	研修地	参加者
7	安全運転管理者講習会	高砂	坊垣、足立
2	県経営協会会計決算講座	Web	塩谷、長尾
3	障害者総合支援法等事業者説明会	Web	坊垣、藤原

5 自己啓発研修

2件利用、 図書購入3件、 『さぼーと』購入補助7人

VII 地域交流

1 ボランティア

- (1)音楽クラブ指導(永江先生) 月1回 帰省日でない土曜または日曜日
 - (2)華道クラブ指導(松尾先生) 月2回 土曜日午前
 - (3)アートクラブ(阿部先生) 月1回 木曜日午後
 - (4)あかり喫茶(秋桜会 5人程度) 第3または第4金曜日 午後、月1回利用者用の喫茶店実施
 - (5)さをり織り製品化ボランティア(あかりの家保護者、元あかりの家利用者保護者、ショートステイ利用者保護者)
- ※上記(1)~(5)すべて、新型コロナウイルスの影響で年間を通じて中止

2 地域交流ホームの開放

- (1) 地域障害児者の和太鼓練習(月2回) ⇒ 新型コロナウイルスの影響で年間を通じて中止
- (2) 専門図書貸し出し(特になし)

3 地域行事等への参加等 ⇒ 新型コロナウイルスの影響で年間を通じて中止

4 広報

(1)ホームページ

新HP(3代目)2013年7月18日にアップ。新HP開設後、カウンター数の追跡が出来ていなかったが、2015年5月18日(月)に内部カウンター設置。

2017年2月28日(火)にスマートフォンで見れるようにサイトを変更。また、同時に記事の更新方法をWordプレス形式に変更し、更新作業を簡易化した。

近年、職員募集に果たすHPの役割が、ますます重要になっている。

今年度、ホームページの更新について検討しようとしたが、更新させるところにまで至らず。

(2)発刊物等

	発行日	発行部数	配布対象
保護者通信「あかりっこ」 No.377～ No.387	毎月	各 100 部程 延 1,000 部程度	保護者、法人役員・評議員、後援会役員、 採用内定者、ボランティア等
「あかりだより」No.31	8/1 (年1回)	600部	法人利用者保護者・職員、後援会員、地域 関係施設・全自者協施設・関係機関等
第28回「あかりの家事例研究会」	3/31	70部	法人あかりの家職員、講師、関係者 他

(3)展示・出展

展示、販売 (「P.6 Ⅲ「作業の概況」の「3 福祉バザー、作業製品展示・販売等」参照)

5 あかりの家施設見学受入 … 3件10人(内、県外 0件0人)

PTA・保護者		福祉事業所関係		教育・保育関係		行政・議員関係		地域関係者		当事者	
件	人	1件	2人	件	人	2件	8人	件	人	件	人

新型コロナウイルスの影響で年間を通じて縮小

Ⅷ 地域支援

1 障害児等療育支援事業

(1)兵庫県

	人・施設	件	障害・施設種別	人・施設	件	障害程度	人・施設	件
訪問療育等 支援事業	25	64	自閉症	23	54	重度	23	54
			知的障害	0	0	中度	2	10
			重症心身	0	0	軽度	0	0
			身体障害	0	0	その他	0	0
			その他	2	10			
施設支援指 導事業	13	56	生活介護・就B他	8	18	施設支援 指導事業	13	56
			地域活動支援センター	0	0			
			学校・保育園	5	38			
合計	38	120	合計	38	120	合計	38	120

福祉圏域	人・施設	件	利用理由	件
東播磨	38	120	療育相談	120
その他県内	0	0	療育援助	0
			その他	0

(2)姫路市

	人・施設	件	障害・施設種別	人・施設	件	障害程度	人・施設	件
訪問療育等支援事業	14	18	自閉症	14	29	重度	13	28
			知的障害	0	0	中度	1	1
外来療育等支援事業		11	重症心身	0	0	軽度	0	0
			その他	0	0	その他	0	0
施設支援事業	7	27	生活介護・就B他	7	27	施設支援事業	7	27
			グループホーム	0	0			
			学校・保育園	0	0			
合計	21	56	合計	21	56	合計	21	56

市町	人・施設	件	利用理由	件
姫路市	21	56	療育相談	51
			療育援助	4
			その他	1
合計	21	56	合計	56

2 短期入所(介護給付) 31人 延 723日

利用形態		障害種別			男女・児者		市町					
形態	日	種別	人	日		人	市町	人	日	市町	人	日
介護給付	723	自閉	29	648	男	27	高砂	2	20	神戸	2	19
私的契約	0		9%	9%	女	4	加古川	16	279	尼崎	0	0
		知的	2	75	児者	0	播磨町	1	7	宍粟	0	0
			6%	10%			稲美町	0	0	朝来	0	0
		難病	0	0			明石	0	0	神河町	0	0
			0%	0%			姫路	8	44	県外	2	354
計	723	計	31	723	計	31				計	31	723

3 日中一時支援事業(地域生活支援事業) 23人、延145日

利用形態	日	種別	人	日	男女、児者	人		人	日
地域生活支援	159	自閉	21	152	男	19	高砂	3	53
			91%	96%	女	4	加古川	10	34
私的契約	0	知的	2	7			明石	0	0
			9%	4%			播磨町	0	0
		その他	0	0	児者	4	稲美町	0	0
			0	0%			姫路	10	72
計	159	計	23	159	計	23	計	23	145

4 被虐待障害者一時保護支援(高砂市と播磨町・稲美町と契約) 実績なし

5 講師、発表、寄稿等 ※()は法人内別事業所職員

兵庫県	令和3年度強度行動障害支援者養成研修	基礎研修 実践研修	1月・2月	講師・演習 補助	坊垣、亀山、(和田)
	行動援護従業者養成研修(NPO法人ばれっと主催;神戸市)		7月	講師	坊垣、亀山、尾崎、前阪、(齋藤、和田、濱口)

6 関係団体等への役員や職員派遣等 ※()は法人内別事業所職員

全日本自閉症支援者協会	理事	19.7~	(和田)
兵庫県自閉症協会	役員	20.4~	坊垣
神戸市自閉症協会	顧問	20.4~	坊垣

播磨地区	職員代表者会	スポーツ委員	20. 4～	道端	
播磨町	播磨町障害者福祉施策推進協議会	委員	20. 4～	坊垣	
	播磨町地域自立支援協議会推進会議	委員	20. 4～	坊垣	
稲美町	地域自立支援協議会	委員	20. 4～	坊垣	
高砂市	自立支援給付等審査会	審査委員	20. 4～	坊垣	
	地域自立支援協議会	全体会	構成員	20. 4～	坊垣
		運営会議	委員	20. 4～	坊垣
		くらし部会	委員	19. 4～	(斎藤)
		こども部会	委員	14. 4～	(福原)
		障害福祉計画進捗評価会議	構成員		坊垣(濱口)
高砂児童学園運営懇話会	委員	'19. 11～	坊垣		
社会福祉法人 トリトン		評議員	16. 3～	坊垣	
社会福祉法人 常寿会		評議員	17. 4～	藤原	

7 強度行動障害地域生活支援事業(県単事業:あかりの家指名委託) 2019年10月～

緊急に支援の必要が認められる在宅の強度行動障害者を、短期から中期間集中支援し、再度地域生活に戻る仕組みを構築するとともに、地域での受け皿ともなる事業所の支援員スキルを向上させ、ひいてはこれら障害者の安定した地域生活を実現させることを目的とした事業

【事業実績】 事業開始から4人目の利用者を受入れ

- ①対象者の受け入れ ・人数:1人(男性)・延べ日数:117日
- ②通所施設、ヘルパー事業所等の支援者研修受け入れ 3事業所5人・延べ日数:32日
- ③通所施設等への直接支援 ・延べ日数:11日
- ④その他 保護者への支援(あかりの家来所、家庭訪問)

【集中支援協議会】 7月1日 兵庫県民会館 13人(うち、委員7人)

【普及啓発】

項目	日	研修会	場所等	講師
事業説明会	8月4日	兵庫県主催 各市町への事業説明会	(WEB)	兵庫県障害福祉課 坊垣 亀山
各種研修会での発表	7月1日	集中支援協議会	兵庫県民会館	あかりの家 亀山 前阪
	9月8日	県育成会 地域生活活動者養成講座	(WEB)	あかりの家 亀山
	11月	県育成会 相談員研修	動画配信	あかりの家 亀山
	12月9日	全日本自閉症支援者協会 滋賀WEB大会 第1分科会行動障害の支援	(WEB)	あかりの家 亀山
	2月28日	兵庫県強度行動障害支援者養成研修(再研修)	(WEB)	あかりの家 亀山
機関紙等への掲載	11月1日	県育成会機関紙 「のぞく」第129号		事業紹介
	12月	県自閉症協会 FaceBook		

8 実習受入(見学は前章の7参照)

- (1)発達障害支援スーパーバイザー養成研修・実務研修受入(コロナ感染防止の為、中止)
- (2)強度行動障害地域生活支援事業(3件5人、延べ32日)
- (3)学生、施設職員(含上記(1)、(2))、学校先生等… 件、人、延 日

実習内容	件数	人数	延日
社会福祉支援実習(社会福祉士受験資格)	0件	0人	延 0日
保育実習	3件	5人	延 50日
介護等体験(教職員免許必修実習)	0件	0人	延 0日
現任訓練(特別支援学校先生、事業所支援員など)	0件	0人	延 0日
発達障害支援スーパーバイザー養成研修・実務研修受入(上記(1)再掲)	0件	0人	延 0日
インターンシップ受け入れ	18件	47人	延 47日
強度行動障害地域生活支援事業・事業所職員実務研修(上記(2)再掲)	3件	5人	延32日

社会福祉支援実習はコロナ禍により学校都合で中止。

9 福祉避難所 …高砂市福祉避難所の指定に関する協定('14(H.2).11)

IX 個別支援計画・施設サービス評価・苦情解決

- 1 個別支援計画 前期と後期の年2回作成。(保護者との懇談はコロナウイルス感染拡大を受けて中止)
2020年度より、期間を1期を3/1~8/31、2期を9/1~2/29としている。対象となる期間の前に説明、押印
いただく形とした。
- 2 施設サービス評価 平成21年2月28日実施 以降なし
- 3 サービス苦情解決(障害者支援施設、短期入所事業)

苦情受付担当者	尾崎 勇一 (サービス管理責任者)
苦情解決責任者	坊垣 勝彦 (あかりの家施設長)
第三者委員	川本 知代子 (あかりの家 評議員) 高尾 剛一 (元高砂市福祉部次長、あかりの家前監事)

期末休み明けに「休み中の生活の様子」を聞き取る。その際「あかりの家への要望等」の項目を設定し、聞き取
っている。今年度、8件「あかりの家への要望等」を取り上げた。

<受付事例>

支援に関する内容(療育支援に関すること・衣類管理に関すること・長期休みの短縮希望など)
外部からは、コロナ禍による短期入所・日中一時事業の受け入れ中止に対して要望など

X リスクマネジメント・虐待・防災・安全・衛生

1 リスクマネジメント

怪我、投棄ミス、物品破損、車キズ等については、「事故等報告書」提出を義務付け。

<怪我>13件(前年比:-8件)

骨折1件。打ち身、切り傷、すり傷等が12件(-5件)。

ランニング・作業棟移動時での転倒は0件(19年度は1件、17年度:4件)。

<破損(利用者対応の有無を問わない)>39件(+6件)

ガラス破損4件(-2件)(内2件は草刈りで小石が飛ぶ、掃除での机の接触。19年度2件、18年度2件)、ドア破損
1件、食器破損34件。

椅子やベッドの破損は0件に減った。破損の約87%が食器破損であり、ここを減らせれば、大幅な減少になる。

開設時より、陶器の食器を利用。破損の大半は、下膳時に各利用者に食器を洗ってもらっているが、その移動
や順番待ちにおいて、姿勢が傾くことにより、お盆から食器が滑り落ちてしまうことにある(2020年度、お盆を新
調したが滑りやすくなっている)。

<投棄ミス> 21件(-2件)

<その他>食事提供ミス1件、連絡帳渡し忘れ1件。(無断外出は0件)

2 虐待

(1)2020年1月「あかりの家療育倫理規定—あかりの家虐待防止5本の柱—Ver. 3—②」を作成

3月「あかりの家療育倫理規定—あかりの家虐待防止5本の柱—Ver. 3—③」を作成

2020年 前期 ペアチェック実施(利用者の呼称と声かけの見直し)

2021年 3月 事例研究会にて発題

2021年 7月 ペアチェック実施。(利用者への声のかけ方、対応が荒くなってしまいやすい場面などが課題
に挙がっている)

(2)各期末全体会で、虐待防止委から問題提起と検討会議実施

「身体拘束記録」での、記録と報告

「緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書」尿カテーテル使用者1人に3か月ごと作成、保護者に提示説明

(3)ARS再検討委員会の設置

これまで作り上げてきたあかり療育スタンダードに息を吹きかけ、自分たちの財産として残していく為。①共通
確認②知識最低基準③療育検討④虐待防止⑤キーワードをARS5本の柱とした。

3 防災

(1) 防災訓練

① 避難訓練

8月5日 避難・通報・消火訓練

10月15日 避難・通報訓練(夜間想定)

3月23日 避難・通報・消火訓練

※今年度についても高砂消防本部を要請しての避難訓練は実施なし(新型コロナウイルス感染予防の為)。

② 新任レクチャー(4月に実施)

・火災時の対応・避難訓練の説明・消火器、散水栓の取り扱い方などを説明

(2) 消防自主点検 月2回程度実施

(3) 消防計画 2022年1月1日付で防火管理者を山口課長補佐から宮本主任に変更。それに伴い、消防計画も一部変更し、高砂消防署に届出済(2022年1月21日)。

(4) 火災による緊急避難

2022年2月9日、高砂市内で火災発生。あかりの家裏山にまで火の手が広がってきていた為、同日、20頃からWH高砂、友愛の家に緊急避難開始。全利用者無事に避難完了し、夜間も全体的に落ち着いて過ごされていた。翌日、午前中に全利用者、あかりの家に戻る。

(5) 業者委託点検等

- a 消防用設備等(スプリンクラー設備、非常動力設備、自動火災報知設備、消防機関に通報する火災報知設備、誘導灯及び誘導標識、消火器具) → 年1回(3月)点検(コロナウイルス感染のため今期は1回)
「消防用設備等(特殊消防用設備等)点検結果報告書」として高砂市消防本部へ届出
- b 特殊建築物等定期調査 → 無
- c 水洗機、ガス式乾燥機点検 → 年1回(3月)点検
- d 自家用電気工作物(高圧受電設備)保安管理 2019年10月1日から毎月1回点検
→11/19点検 電灯回路が絶縁不良 修理済み

(6) 電気設備の安全調査(加古川地区電気安全調査センター) → 無

(7) LPガス設備保安点検((有)保安センター東播) → 無

4 交通安全

(1) 車両管理:担当者により点検

(2) 無事故・無違反運動「チャレンジ100」(10/1~1/8)(県全運転管理者部会等共催)に12年連続12回目の参加。3チーム(1チーム10人、計30人参加)編成し、3チームが無事故・無違反を達成し、表彰を受ける。
(1チーム時代6回中5年無事故無違反、今回含めて延26チーム中19チーム無事故無違反達成)

(3) 安全運転管理者等講習会 7/9 足立事務員(補)出席
安全運転管理者等講習会 7/6 坊垣施設長出席

5 衛生

(1) 貯水槽清掃 8月12日業者にて実施

(2) 合併処理浄化槽関係 ①合併処理浄化槽業者点検 年24回(毎月2回)実施
②(社)兵庫県水質保全センター検査 8/3「適正」

XI 総務関係

1 職員の採用・退職(あかりの家)

- (1) 正規職員 採用3人 : 4/1支援員(男1女2)、退職2人 : 8/31事務員(女1) 3/31支援員(女1)
- (2) 嘱託職員 採用なし、退職1人 : 3/31看護師(女1)
- (3) パート職員 採用・退職 なし

2 求人活動(法人)

(1) 2021年新卒支援員等求人

① インターネット求人サイト「マイナビ」を活用(対象期間:2020年6月~2021年6月)

◇ エントリー総数:108人、インターンシップ参加者:5人、オンライン説明会参加者:44人、見学説明会参加者:15人、採用試験受験者:7人

◇新型コロナウイルス感染防止のため、合同説明会等イベントへの参加は中止した。また、インターンシップの大部分も開催を取りやめた。ただ、インターンシップから内定まで繋がる学生が毎年数名程度おり、そのケースは定着率が高い傾向にあるので、インターンシップは意味があると評価している。

◇オンライン説明会での対応にシフトした結果、法人あかりの家に関心のある学生がエントリーをすることとなり、また時間と場所の制約が少ないせいか、前年より多くの学生と出会うことができ、見学説明会への参加率向上と採用試験の受験者増に繋がった。

3 職員構成(あかりの家)('22. 3. 31現在)

		施設長	副施設長	支援員	看護師	事務員	栄養士	調理員	計
常勤職員 現員	男	1	1	14					16
	女			13	1	4	2	3	23
	計	1	1	27	1	4	2	3	39
非常勤				4(4)	2(2)	1(1)			7(7)
計		1	1	32(4)	3(2)	5(1)	2	3	46(7)

4 職員年齢構成('21. 3. 31現在)

		20代	30代	40代	50代	60代	70代	計	総計
常勤職員	男	5	5	3	2	1		16	39
	女	11	6	2	2	2		23	
非常勤			1	2(2)	2(2)	2(2)		7(7)	7(7)
総計		16	11	9(2)	6(2)	5(2)		46(7)	46(7)

※常勤職員平均年齢39.4歳、常勤生活支援員平均年齢33.6歳、常勤職員平均勤続年数7.7年

5 資格取得の状況(常勤職員:延人員)

サービス管理責任者(9)、社会福祉士(8)、精神保健福祉士(1)、介護福祉士(2)、介護支援専門員(1)、保育士(5)、知的障害援助専門員(1)、教員(5)、幼稚園(2)、相談支援援助実習指導者(1)、臨床心理士(1)、公認心理師(1)、看護師(2)、准看護師(1)、管理栄養士(2)、栄養士(2)、調理師(2)、防火管理者(4)、社会保険労務士(1)

6 表彰(法人)

(1)法人あかりの家表彰(2011年4月「表彰規程」施行)

20年勤続	藤田照代
10年勤続	宮本翔、杉原利恵

(2)外部機関・団体からの表彰

県全運転管理者部会等共催	無事故・無違反運動 「チャレンジ100」達成表彰	3チーム・30人参加、 3チーム達成
--------------	-----------------------------	-----------------------

7 衛生委員会(2016.9.1発足)

委員会:毎月1回開催(年12回実施)

委員:統括管理者(坊垣)、産業医(井野)、衛生管理者(藤原)、看護師(川西)、改善委員会担当支援員

主な議題:長時間労働の実態報告、職員の健康診断、感染症対策、作業環境について等

8 購入、工事、修繕、寄付物品等(10万円以上)

4月	天吊りエアコン(西作業棟(プラク班))((株)ODS)	35.5万円
5月	乾燥機修理工事((有)軸丸精機)	13.3万円
5月	AED((株)ゴトウアズプランニング)	25.6万円
5月	男性浴室窓サッシ改修工事(河田建設(株))	48.9万円
5月	スプリンクラー修繕工事(豊設備商会(株))	240.0万円
5月	消防設備改修工事(豊設備商会(株))	12.2万円
6月	軽車両N-BOX買取(リコーリース(株))	22.0万円
7月	天吊りエアコン(西作業棟(さより班))((株)ODS)	40.2万円
7月	放流ポンプ取替工事(交流ホーム)(プロンテック(株))	13.5万円
9月	放流ポンプ取替工事(あかりの家)(プロンテック(株))	12.1万円

11月	スプリンクラー漏水修繕工事(豊設備商会(株))	33.7万円
12月	居室棟WiFi工事(リコージャパン(株))	265.3万円
12月	北作業棟手洗い設置工事(河田建設(株))	28.2万円
12月	北作業棟テラス屋根設置工事(河田建設(株))	48.7万円
1月	車椅子対応N-Box (ホンダ四輪販売山陽)	201.2万円
2月	放流ポンプ取替工事(あかりの家)(プロンテック(株))	13.3万円
3月	居室エアコン取替(南棟122号)(河田建設(株))	14.5万円
3月	居室棟 コーナークッションゴム取付工事(河田建設(株))	24.6万円
3月	流し台取替工事(1Fリビング)(豊設備商会(株))	32.6万円
3月	事務所改修工事着手金(高砂市北浜町西浜)	216.3万円

年度特記事項

- 1 強度行動障害地域生活支援事業(県単委託事業3年目)を実施(コロナの影響で対象者1名のみ)
- 2 車いす対応の車両を購入
○中央競馬馬主社会福祉財団助成金から100万円の助成金交付があった。
- 3 コロナ対策に付随して、利用者の生活環境改善を実施
○Web面会を実施するため、居室棟にWiFiの設備を整えた。

令和3年度 児童発達支援室 事業報告書

令和4年3月30日

福原正将

1. 事業の状況

①契約状況(令和4年3月30日現在)

事業名	児童発達支援	放課後等デイ	保育所等訪問	合計
人数	15名	39名	10名	53名

②事業実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
児童発達支援	46 (+11)	49 (+8)	60 (-10)	51 (-21)	30 (-36)	56 (-17)	60 (-27)	70 (±0)	73 (+1)	49 (-19)	66 (-2)	75 (-7)	685 (-119)
放課後等デイ	119 (+40)	111 (+29)	139 (+10)	113 (-6)	77 (-34)	120 (-1)	116 (-2)	115 (+13)	119 (+7)	99 (-13)	115 (+11)	131 (+3)	1374 (+57)
保育所等訪問	11 (+10)	10 (+9)	10 (+2)	8 (-2)	4 (+2)	10 (-3)	11 (+2)	11 (+2)	17 (+7)	13 (+2)	16 (+6)	10 (±0)	131 (+37)

* () 内は、昨年同月比

* 8月新型コロナウイルス感染の関係で事業所の閉所。1、2月地域の保育園、小学校で感染拡大。

数字を見ると、今年度も昨年に比べ減っている。新型コロナウイルス感染症の影響が大きく数字に出ている。

2. 業務実績等

①令和4年度新規事業所開設準備

利用ニーズの増加、それらに応えられない実情(定員)を抱えることが続いており、それらを解消するために、新規事業所の開設準備を行う。

支援の精度を上げていくために、各事業所の特色を整理し運営する方向の中で、次年度に繋げていくための支援の工夫を検討。

個別支援から個別性を維持できるグルーピング

②支援連携の強化と課題

これまでの活動の中で関係を築けている保育園や小学校とは引き続き、連携を取りながら、支援を必要とする子の手助けができるように展開している。その中での成果としては、この事業所外での支援の中核をこれまでの担当者から、次へ繋ぐことができ、そこで新しい信頼関係を作れていること。

課題としては、学校との関係。全くと言って良いほど進まないこと。毎年、振り返りの中で出てくるテーマとなっている。意見を交換するということに大きな壁があった為、今年度は定期的な支援の経過報告を一方的にお伝えし、とにかく、知ってもらい、関心を持ってもらうことをしたが、成果は全く得られず。課題は続く。

③支援者の育ち

ここまで直接支援の現場、あかりの家の敷地の中で実践してきた支援やそこで深めた考えを持って、保育園という場所で、同じ支援をしっかりとブレずに行うくらいにまで、支援員が力をつけてきた。あかりの家の支援が、どの職員でも変わらないクオリティーで提供できる水準に達してきた。

2021（令和3）年度 多機能型事業所 ワークホーム高砂 事業報告

2022. 3. 31現在

《Ⅰ 沿革》

- 2003（平成15）年 4月 1日 知的障害者通所授産施設ワークホーム高砂 開設
- 2012（平成24）年 1月 1日 多機能型事業所（生活介護、就労継続B型）に移行
- 2020（令和 2）年10月19日 納豆工房なっとこちゃん（従たる事業所）開設
- 2021（令和 3）年12月31日 納豆工房なっとこちゃん（従たる事業所）廃止
- 2022（令和 4）年 1月 1日 生活介護事業所 納豆工房なっとこちゃん 開設

《Ⅱ 利用者状況》

1 定員と契約者数 （単位：人）

事業種別	定員	契約者数
生活介護事業	12	10
就労継続B型事業	28	27
合計	40	37

2 市町別契約者数 （単位：人）

市町名	生活介護事業	就労継続B型事業	計
高砂市	4	17	21
加古川市	2	3	5
播磨町	0	3	3
小野市	1	0	1
姫路市	3	4	7
合計	10	27	37

3 利用者年齢構成

（1）生活介護事業 （単位：人）

年齢	10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		合計
	~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	~54	~59		
男性	0	1	2	0	1	1	1	1	2	9	
女性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
合計	1	1	2	0	1	1	1	1	2	10	

	男性	女性
最少年齢	23歳0か月	18歳9か月
最高年齢	58歳0か月	18歳9か月
平均年齢	40歳9か月	45歳9か月
男女平均年齢	38歳7か月	

（2）就労継続B型事業 （単位：人）

年齢	10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		合計
	~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	~54	~59		
男性	1	2	3	6	5	2	2	0	0	21	
女性	0	1	0	0	0	3	2	0	0	6	
合計	1	3	3	6	5	5	4	0	0	27	

	男 性	女 性
最少年齢	18 歳 5 か月	23 歳 1 か月
最高年齢	48 歳 2 か月	47 歳 10 か月
平均年齢	33 歳 9 か月	40 歳 6 か月
男女平均年齢	35 歳 3 か月	

4 利用者月別実人員・延べ人数

(1) 生活介護事業

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人員	13	13	13	13	13	13	14	14	13	9	9	10	147
延人員	277	265	275	269	261	277	293	291	284	164	164	191	3,011

(2) 就労継続B型事業

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人員	29	30	30	30	30	29	29	29	29	27	26	27	345
延人員	612	589	631	635	562	577	590	586	573	506	481	559	6,901

5 入退所・変更契約の状況(年間)

(1) 生活介護事業・・・サービス変更・入所(新規含む) 5名

サービス変更・退所 9名

(2) 就労継続B型事業・・・サービス変更・入所(新規含む) 4名

サービス変更・退所 5名

※「納豆工房なっとこちゃん」へ移動した利用者 7名

6 障害支援区分

(1) 生活介護事業

(単位:人)

	区分3	区分4	区分5	区分6	計
高砂市	0	0	2	2	4
加古川市	0	1	1	0	2
播磨町	0	0	0	0	0
姫路市	0	1	0	2	3
小野市	0	0	1	0	1
合計	0	2	4	4	10

(2) 就労継続B型事業

(単位:人)

	非該当	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
高砂市	9	1	3	3	1	0	0	17
加古川市	0	0	1	1	1	0	0	3
播磨町	0	0	2	0	1	0	0	3
姫路市	2	0	0	2	0	0	0	4
小野市	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	11	1	6	6	3	0	0	27

7 知的障害の程度（「障害者（療育）手帳」の判定による）

（単位：人）

区分	重度	中度	軽度	なし	合計
男性	12	13	5	0	30
女性	3	3	1	0	7
計	15	16	6	0	37
比率	42%	42%	16%	0%	100%

8 自閉症または自閉的傾向を有する者（入所時の諸書類を基に集計）

区分	男性	女性	計
人員	19人/30人	2人/7人	21人/37人
比率	63.4%	28.6%	56.8%

9 その他の障害、てんかん

（単位：人）

区 分		男性	女性	小計	合計
身体	肢体不自由	1（2種6級）	0	1	2
	難聴	1（1種2級）	0	1	
精神科薬	てんかん	4	0	4	4
延べ人数		6	0	6	6

10 利用者の通所方法

（単位：人）

	徒歩	自転車	バス	JR	バスとJR	山陽電車	付き添い通所
男性	8	8	0	2	0	1	11
女性	2	1	0	0	0	2	2
計	10	9	0	2	0	3	13

《Ⅲ 生活支援》

1 一日のスケジュール（日課の基本）

午前 8：45来所、朝の会 ⇒ 9：00作業開始 ⇒ 10：50午前休息 ⇒
 10：50作業開始 ⇒ 11：30～12：30昼休憩（昼食・歯磨き）
 12：30～13：30昼休憩（昼食・歯磨き）
 午後 13：00作業開始 ⇒ 15：00休憩（夏はスポーツ飲料）
 15：10作業開始 ⇒ 16：45作業終了、終りの会
 17：00帰宅

2 昼休憩等の過ごし方

日課の中心が「作業」であることから、休憩は「多目的室（食堂兼休憩室）」など各自の好みの場所で自由にとってもらった。しかし、自閉症の方については、落ち着ける環境を整える必要性から、多目的室に固定の席を設けるなどの工夫を行った。

3 新型コロナ対策等

新型コロナウイルスの感染対策として、休憩時間を2回に分けて密集を避けることや、常時窓を開けての換気、空気清浄機やオゾン発生機の設置、また、机にパーテーションを設置するなどの対策を

行った。

4 水分補給について

夏場の熱中症対策（5月～10月）として、年間通しての「麦茶」提供に加えて毎日500mlのスポーツ飲料（保護者会からの提供）を全利用者と職員に提供した。また、利用者の水分摂取量を把握しやすくするため、500mlのウォーターボトルを全ての利用者に提供した。

5 作業以外の活動（クラブ活動・サークル活動など）

（1）料理クラブ

新型コロナウイルスの影響で中止

（2）余暇活動など

毎週水曜日の15:00～16:30の時間を余暇活動時間と設定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大を考慮して余暇活動はを中止とした。

（3）一泊旅行

新型コロナウイルスの影響で中止

（4）のじぎくスポーツ大会

新型コロナウイルスの影響で中止

（5）ばんたん親善運動会

新型コロナウイルスの影響で中止

（6）ばんたんゆうあい文化祭

新型コロナウイルスの影響で中止

（7）おつかれさん会

3月30日に1年間の締めくくりとして「利用者おつかれさん会」を実施し職員が製作したDVDを上映、利用者全員で鑑賞した。

（8）実施した主な行事

4月	お花見会（天川東公園）
6月	事業所説明会（特別支援学校生徒の保護者向け）
7月	事業所説明会（特別支援学校生徒の保護者向け）
8月	事業所説明会（特別支援学校生徒の保護者向け）
12月	保護者クリスマス会（WH・納豆工房にて 保護者会が用意した弁当を提供）
2月	事業所説明会（特別支援学校生徒の保護者向け）
3月	事業所説明会（特別支援学校生徒の保護者向け） 利用者お疲れさん会（DVDの鑑賞）

《Ⅲ 利用者支援、作業支援》

1 ワークホーム高砂の利用者支援と作業支援の基本

以下の（1）～（5）を基本に支援を行った。

- （1）利用者支援の基本は、働くことを基本にして社会性・協調性（仲間意識）を育み、仕事に自信と責任が持てるような支援を行った。また、個別支援計画を基本に個々の目標やテーマに添った関わりを大切にした。
- （2）「働くことの基礎は生活にあり」を意識して、睡眠、食事、排せつなどの家庭における生活を見直し、「健康な生活づくり」を保護者と連携しながら取り組んだ。特に、一人暮らしの利用者につい

ては、通院付き添いや投薬、血圧・体重などの管理を行うとともに、保護者や本人の要望を受け歯科受診などの付き添いも積極的に行った。

- (3) 個別支援計画の見直しを兼ねた個別懇談会を本人・保護者・施設長（サービス管理責任者）・担当支援員が同席して年2回実施することを基本としたが、本年度は新型コロナの影響により、懇談会は1度の実施となった。
- (4) 本人や保護者の希望を踏まえて就労を目標に掲げた取り組みを行うとともに、働くことを生活の柱に据えた充実した暮らしづくりの応援を積極的に行った。
- (5) 作業支援の基本は、就労継続B型事業所だけではなく生活介護事業所においても、「働く中でたくましく」「働く仲間を大切にする」を目標に、「大人としての働き方」を追求し、「就労移行支援事業所」や「A型事業所」「一般就労」へのステップアップを目指した。
- (6) あかりの家との連携を図り、あかりの家関連の事業所から3名の利用者を受け入れ、利用者が混乱なくワークホーム高砂で働けるよう利用者情報の共有に努めるとともに、必要な調整を行った。

2 作業内容

(1) クリーニング作業

ゴトウ・アズ・プランニング社との連携（委託作業）によるクリーニング作業

(2) 納豆製造作業等（2020年12月31日まで）

「納豆工房なっとこちゃん」における納豆の製造・販売とショップ運営

(3) その他作業

①ウエスの販売 ②楠公園清掃作業

3 クリーニング作業の主な取り組み

- (1) 設立当初から「シーツ班」「たたみ班」「仕分け班」「タオル班」の4つに班分けを行い、利用者支援を実施してきたが、平成29年度からは、作業班にこだわらない横断的な作業方法を取り入れ、利用者が様々な作業に挑戦できるような環境を整えるなど丁寧な支援に努めてきた。その結果、利用者のできる作業が増え、作業効率も大幅に向上した。
- (2) 2020年度は、新型コロナ対策として「仕分け班」を完全に撤廃し、利用者、職員の分散がなくなり、効率的な作業環境を整えた。10月には「納豆工房なっとこちゃん」がオープンし、作業人員が大幅に減ったが、作業班にこだわらない横断的な作業方法が身につけていたことから大きな混乱もなく作業を行うことができた。
- (3) 2021年度においても利用者の作業リーダー制、休憩の交代制について継続して取り組み、利用者の自主性を伸ばすことができた。また、2020年度から試行していた「洗濯後の仕分け作業」を継続して行い、利用者の作業を衛生区域のみで行うことができた。
- (5) 2021年1月1日からは納豆工房なっとこちゃんが生活介護事業所として独立したため、7名の利用者が納豆工房へ異動した。

4 クリーニング作業における協力企業との関係

(1) クリーニング事業の協力企業・・・株式会社ゴトウ・アズ・プランニング

設立時は、株式会社MAO（オノエクリーニング51%、ゴトウ・アズ・プランニング49%出資の合弁会社）が協力企業であったが、平成22年にゴトウ・アズ・プランニングがオノエクリーニングの出資分を買い取り、協力会社はMAOからゴトウ・アズ・プランニングに変更となった。

(2) ゴトウ・アズ・プランニングとの話し合いについて

2021年度は、前年度から引き続き、安杖社長（ゴトウ・アズ・プランニング）と齋藤施設長、長谷川副施設長、楠課長補佐による現状の共有化と課題解決に向けた「経営会議」を計6回開催した。

また、2020年度から実施している現場レベルの調整を行う「運営会議」については8回開催し、第2回目からは、機械更新や運営形態の変更等を現場レベルで調整・検討するプロジェクトチームとして位置付けた。なお、「経営会議」については、新型コロナウイルス対策の為、2022年2月28日開催時よりリモート会議を導入した。

《経営会議開催日》

第1回	2021年	4月	19日	第2回	2021年	6月	1日
第3回	2021年	7月	14日	第4回	2021年	10月	14日
第5回	2022年	1月	26日	第6回	2022年	2月	28日

《運営会議開催日》

第1回	2021年	5月	21日	第2回	2021年	11月	1日
第3回	2021年	11月	19日	第4回	2021年	12月	20日
第5回	2022年	1月	31日	第6回	2022年	2月	23日
第7回	2022年	3月	4日	第8回	2022年	3月	17日

（第2回開催よりプロジェクトチームとして役割を担う）

5 クリーニング作業環境の改善（継続的取り組み）

- (1) 平成25年度から暑さ対策としての作業環境改善に取り組み、ルーファンの設置（2カ所）、排煙窓の新設工事（東西北面）を実施した。
- (2) 平成26年度は、シーツロール機の北側面に窓を新設し空気の入れ換えができる環境整備を実施した。
- (3) 平成27年度は、工場周辺のセメント舗装を実施し清掃がしやすい環境を整えたほか、工場内の安全通路の確保や立ち入り禁止区域の設定等、安全確保に重点を置いた環境整備を行った。
- (4) 平成28年度は、9月に駐車場を新たに新設し、仕分け班専用の更衣室を設置、施設内の電灯のLED化を完了、シーツ班投入機北側上部の窓を新たに増設、西側窓に遮光フィルムを貼る工事を行った。また、北側「松本商会」との賃借契約を3月末で解消した。
- (5) 平成29年度は、工場清掃の効率化を目的に1階南側に引き戸の大型出入口を設けたほか、採光と風通しを目的に工場内汚染区域に大型サッシ2基を設置した。また、医療関連サービスマーク認定に備えて洗濯場と仕上げ場の境界にビニールカーテンを設けるとともに、大型洗濯機の横と準汚染区域内消毒保管庫の横に手洗い場を設置するなど衛生環境の整備を実施した。
- (6) 平成30年度は、仕分け班の作業服をつなぎ服に変更するなど感染症対策を積極的に行った。また、仕分け班作業場に固定式の扇風機を設置し、作業環境の改善を図った。
- (7) 令和元年度は、5S活動の一環として作業後の作業場清掃を実施した。また、新型コロナウイルス感染症対策の一環として仕分け作業を廃止する方向でGOTOと協議し、3月に試行し次年度からの本格実施に備えた。このことはワークホームの歴史にとっては画期的なことであり、利用者全員が衛生区域で作業することになるとともに、仕分け作業の重労働からも解放されることとなった。

- (8) 令和2年度は、コロナ対策を徹底し、汚染区域、準汚染区域、清潔区域を分け玄関を変更した。その際、防寒対策のためアコーディオンカーテンを設置し、冬場の作業場温度を確保した。また、駐車場の安全対策の一環として、フェンス沿いに人工芝を設置した。
- (9) 令和3年度はこれまで週6日稼働している工場運営を週5日稼働に変更することにより、1日当たりの利用者数と職員数を確保し支援環境の改善を図るための準備を進め、令和4年度から試行導入をすることを決めた。

6 医療関連サービスマーク認定更新について

病院寝具を専門に洗濯するために必要な「医療関連サービスマーク」については、ワークホーム高砂開設時の平成15年度に初めて認定を受け、以降3年に一度の頻度で更新している。

(次回更新日：令和6年1月31日)

7 納豆工房なっとこちゃん（納豆の製造、販売、ショップ運営）の主な取り組み

(1) 「納豆工房なっとこちゃん」の独立と特徴

2020年10月19日（月）、兵庫県の指定（ワークホーム高砂の従たる事業所）を受けて、高砂市曾根町に「納豆工房なっとこちゃん」を設置し、希望山荘敷地内にあったそれまでの納豆作業所を廃止した。事業所の機能としては、①納豆の製造を行う「作業場機能」 ②納豆の販売や周辺の福祉事業所の製品も販売する「福祉アンテナショップ機能」 ③納豆の製造や販売、製造現場の見学などをおして障害者理解を深めていただく「啓発的機能」を主なものとして位置付けて運営を行った。

2022年1月1日に生活介護事業所として独立し、それに伴い就労継続B型の利用者6名がワークホームのクリーニング作業に戻る事となった。

(2) 納豆製造と販売などの主な取り組み

- ① 新商品である「作用もち大豆納豆」を納豆工場の立ち上げと同時に販売を開始した。
- ② 2021年6月からの HACCP の義務化により、2020年度から取り組んでいた HACCP について本格的な運用を開始した。
- ③ 2021年度の新商品としては、「なっとこちゃん（梅）」「なっとこちゃん（わさび）」を販売した。
- ③ 2021年度のヤマダストアーについては、7店舗に加え新たに「須磨離宮店」のオープンを機に販売を開始した。また、JAの協力を得て新たに「ふぁーみん」（2021年3月末から）との取引を本格的に開始し4店舗で販売を開始した。
- ④ ネット販売では、健康ライフで「なっとこちゃん」全5種類を販売し、6月にはネットショップ「ストアーズ」の中に「なっとこちゃん」の店舗を設けて販売を開始した。
- ⑤ 2021年10月には1周年記念企画として、ショップ商品の記念ラベル、1周年記念の横断幕の設置、1周年記念商品「贈答用納豆《花なり》」を店舗とネットショップで販売した。

⑥ その他の出店・販売

○山陽百貨店販売

6月23日（水）～29日（火）、9月22日（水）～28日（火）、10月13日（水）～26日（火）

3月2日（水）～3月8日（火）、3月30日（水）～4月4日（月）

○つながるマルシェ（セルフ主催）

3月15日（火）

○+NAKAMORI マルシェ（セルフ開催、県庁）

11月5日（金）、3月17日（木）

○兵庫福祉事業所フェスティバル（セルフ主催）

12月11日（土）、12月12日（日）

○スイーツ甲子園+農福連携マルシェ

3月5日（土）、

8 その他作業（「洗車作業」「ウエス販売」「楠公園の清掃受託」）について

○洗車事業に関しては新型コロナウイルスの影響もあり、本年度は実績なし

○クリーニングの廃棄タオルをウエスとして販売

○高砂市からの委託により希望山荘東側の「楠公園」の清掃を実施

9 作業収入と工賃支給

（単位：円）

	事 項	令和2年度	令和3年度	備 考
収入	洗濯事業収入	19,518,904	19,749,997	ゴトウ・アズ・プランニング委託料
	納豆販売収入	8,809,878	9,156,948	自主生産事業
	公園清掃収入	62,500	62,500	高砂市からの委託料（楠公園清掃）
	その他収入	800	0	洗車作業等
	計	28,392,082	28,969,445	
支出	工賃支給額	21,108,020	19,827,940	
	作業経費	6,222,962	7,998,705	賃借料・水道光熱費・納豆材料費等
	消費税	1,061,100	1,142,800	
	計	28,392,082	28,969,445	
収支差額		0	0	

10 利用者工賃の考え方と「業績賞与」について

(1) 工賃については、「ワークホーム高砂工賃支給要領」に基づき支給した。基本的な考え方としては、事業にともなう純利益を工賃財源とし、年2回（4月、10月）の工賃見直し評価を行い、各自の作業能力を評価したうえで時間給に換算し、働いた時間数を掛け合わせて工賃を決める方法を採用した。

(2) 平成28年度後期から始まった「業績賞与」については、2021年度においてもゴトウ・アズ・プランニング社から1,102,252円の支給が別途あった。

(3) 工賃については、毎月第2水曜日に支給し、一時金については、8月、12月、4月に支給した。

(4) 工賃支払い実績

（単位：円）

	4月	5月	6月	7月	夏季一時	8月	9月
生活介護	288,010	277,740	287,680	275,770	200,000	270,390	285,120
就労B	1,020,960	966,660	1,031,700	1,060,230	570,000	967,590	947,840
計	1,308,970	1,244,400	1,319,380	1,336,000	770,000	1,237,980	1,232,960
	10月	11月	12月	冬季一時	1月	2月	3月
	302,910	296,560	289,080	155,000	200,790	181,100	204,810
	996,750	1,006,290	967,170	840,000	908,540	834,500	959,750
	1,299,660	1,302,850	1,256,250	995,000	1,109,330	1,015,600	1,164,560
							460,000
							2,775,000
							3,235,000

	年間工賃 計	平均工賃月額
生活介護（延べ人数：134）	3,974,960	25,238
就労B（延べ人数：309）	15,852,980	44,349
計	19,827,940	

《IV 健康管理・栄養管理などの支援》

1 健康管理及び保健衛生等

（1）保健衛生会議の開催

「保健衛生会議」を月1回開催し、囑託医師である井野医師の指導のもと、利用者の健康管理や職場の衛生管理、感染症予防、作業環境管理・改善に努めた。

（2）定期的な健康診断と体重測定

定期健康診断については、7月（利用者と職員に空腹時検査の協力をお願いした）と1月（職員のみ）に実施し、結果については、井野囑託医師に報告し指導を受けた。また、医師の意見も添えて、その結果を各家庭に配布し、本人と保護者に説明するように努めた。

「体重測定」については、偶数月に実施しBMI値の算出を行い、肥満の予防に努めた。特に気になる利用者については、体重を毎日測定し記録する中で本人の意識を高めるように支援した。また、糖尿病の利用者については、糖尿病食を斡旋するなどの対策を行った。

（3）作業環境の把握

作業場に温度湿度計を設置し作業環境の把握に努めた。特に夏場は、休憩（30分に1回）や水分補給を頻繁に行うなど、熱中症対策を重点的に行った。水分補給については、各利用者に水筒（平成28年度から導入し、当初は保護者会から支給、本年度は事業所にて配布）1本を配布し、各自の一日の水分量を職員が把握・管理した。また、作業場の気温が30℃を超える5月～10月にかけてスポーツ飲料（ペットボトル1本500ml）を配付し熱中症対策を行った。

（4）感染症対策

- 新型コロナウイルスなどの感染症対策全般については、看護師を講師とする学習会を開催し職員の知識と技術を高めるように努めた。具体的には、①検温の実施 ②アルコールによる手指消毒の徹底 ③マスクの正しい装着支援 ④次亜塩素酸ナトリウムによるドアノブ等の拭き取り ④多目的室機のパーテーションの導入 ⑤食事場面での非対面方式の導入 ⑥毎日の十分な換気 ⑦「3密（密閉、密集、密接）」の回避 などの対策を行った。また、利用者や保護者については、不要不急の外出自粛を定期的に呼びかけた。
- 作業終了時や食事前、トイレ使用後などについては、手洗いの励行とアルコールによる手指消毒を徹底するよう積極的に呼びかけるなど、利用者と職員の感染症予防に対する意識向上を図るよう努めた。
- 洗濯作業においては、汚染物も取り扱うためゴトウ・アズ・プランニングの職員を含めた全職員を対象に、感染症の基礎と疥癬、MRSA、ノロウイルスの勉強会を行い、感染症に対する知識を深めるとともに感染症予防への意識を高めた。
- 以上のような取り組みが功を奏し、利用者については一人も感染者を出さずに済んだ。

(5) 加古川歯科保健センターとの連携

加古川歯科保健センターから派遣される歯科衛生士による歯磨き指導を利用者全員が受け、その結果を家庭に知らせ、必要な人については歯科治療をお願いした。また歯科衛生士による歯磨き指導を契機として、昼食後の歯磨きへの関心を高めることに努めた。本年度についても特に口腔内の汚れが多かった利用者については、職員が付き添い歯磨きを徹底的に行った。

(6) 生活習慣病の予防

健康の維持管理については、利用者の年齢が高くなるに連れ「生活習慣病」の予防対策が重要になりつつあり、定期健康診断の結果を踏まえて積極的に受診を促した。また、受診に関して保護者の協力が得られにくい利用者については、職員が通院の支援を行った。

グループホーム利用者を中心に生活習慣病罹患利用者は月1回の井野病院、歯科への定期通院の支援を行った。また風邪症候群や皮膚疾患などに対しても病院受診の検討を行い、必要に応じて定期外受診の支援を迅速に行った。検査結果や内服薬などに関しては医師からの情報を正しく看護師から支援員に伝達するよう努めた。

(7) グループホーム利用者への支援

グループホーム所属の看護師が、週に2回グループホーム利用者に対し入浴支援と身体観察を行い異常の早期発見に努めた。

2 栄養・給食について

(1) 給食委員会の開催

利用者の昼食の充実と安心・安全な食事提供を目的として、業者（有限会社ひでかつ給食）（株式会社いけのやフーズ）と連携して給食提供を行った。

本年度は、食事の充実を図るため、奇数月については「いけのやフーズ」を利用し、偶数月については「ひでかつ給食」を利用した。また、給食委員会を「ひでかつ給食」「いけのやフーズ」の栄養士参加のもと各2回（ひでかつ給食：8/12、9/30、いけのやフーズ 4/6、8/16）実施するとともに、現場見学を行うなど、より良い給食の提供に努めた。

(2) 新型コロナ感染症対策

本年度についても新型コロナウイルスの感染対策を図る観点から、施設での盛り付けが必要な「お楽しみメニュー」を中止とし、お弁当の形でのお楽しみメニューを提供した。また、昨年度に引き続き、ワークホーム高砂が製造する納豆「なっとこちゃん」を提供した。

《V 人権擁護、虐待防止の取り組み》

1 虐待防止の取り組み

虐待防止では、新任職員の入れ替わりを考慮して令和3年11月1日に担当職員を新たに位置づけた「虐待防止・人権擁護委員会」を設置して研修会やチェックリストを定期的に行うなど、利用者の人権擁護と現場における虐待防止に努めた。

2 本年度の取り組み

職員間で互いの支援方法などについて意見が出しあえる環境や客観的に自分を見つめ直し支援を振り返ることが虐待の未然防止には必要であることから、行政が推進するチェックリストによるセルフ

チェックを行い日頃の利用者や職員との関わりを振り返り、虐待防止についての意識を再確認した。

《VI 防災への対応》

- 1 危険物管理 地下タンク及び地下埋設配管について毎週点検し、記録に残した。(消防署の指導にもとづき毎月曜日点検実施)
- 2 防火管理 毎月1回、防火管理自主点検表による点検を実施した。
- 3 車両管理 担当者により概ね1か月に1回、点検を実施した。
- 4 セキュリティー ワークホーム高砂と納豆工房なっここちゃんの敷地内に防犯カメラを4箇所ずつ設置し、セキュリティーシステムを稼働させ建物内の防犯に努めた。
- 5 防災訓練 1月避難訓練、通報訓練を実施 3月避難訓練、通報訓練、消火訓練を実施。

《VII 職員研修(施設外研修)・会議等(主なもの)》

月	研修名	場所	参加者
8	播淡地区施設長・職員合同研究会	オンライン	齋藤
10	兵庫県知的障害者施設協会播淡地区職員研修	オンライン	大谷
12	全国生産活動・就労支援部会職員研修	オンデマンド	齋藤
1	全国知的障害福祉関係職員研究大会	オンライン	吉中
2	のじぎくスポーツ大会参加申し込み説明会	神戸	吉中
3	2021年度強度行動障害スーパーバイザー養成講座における実践報告会	オンライン	齋藤 楠

《VIII 資格取得等》

資格名称	取得者氏名
食品衛生責任者	大谷彩花

《IX 施設サービス評価、苦情解決》

1 施設サービス評価

本年度は受診せず

2 サービス苦情解決

保護者懇談会において、利用者や保護者からの要望等を積極的に聞くように努めたほか、毎月の保護者会役員会や保護者会行事に施設長が参加し、保護者の要望等を積極的に聞くように努めた。

食堂に「意見箱」を設置し、利用者からの意見を聞くように努めた。

苦情受付担当者： 楠 英充

苦情解決責任者： 齋藤 克己(理事・施設長)

第三者委員： 富士原 一成(前高砂市社協理事長)、高尾 剛一(あかりの家 元監事)

(令和4年4月1日からは、富士原氏から川本知代子氏に変更)

《X 地域支援、地域啓発活動など》

1 見学・実習の受け入れ等

事 項	内 容
特別支援学校保護者等 説明会	6月16日、7月21日、8月27日、2月23日、3月11日 特別支援学校の保護者や事業所職員を対とした利用者獲得のための説明会 (延べ30名)
施設見学	10月12日 いなみの特別支援学校(26名) 11月9日 東はりま特別支援学校(34名)
特別支援学校実習	8月23日～8月27日 西神戸特別支援学校(1名) 10月4日～10月8日 東はりま特別支援学校(2名) 1月17日～1月20日 東はりま特別支援学校(1名)
学生社会福祉実習	新型コロナウイルス感染症感染拡大のため実施なし

2 講師派遣

- ① 7月17日 NPO法人パレットが主催する「行動援護従事者講習会」の講師として施設長が講義した。
- ② その他、予定されていた研修会は新型コロナウイルスの影響で中止となった。

3 機関紙の発行

毎月、「月刊ワークホームだより」を発行し、保護者に配布するとともにホームページで公表した。また、地域の方や関係者にも配布した。

4 ホームページの更新

ワークホーム高砂のホームページは、平成27年度に県立総合リハセンター内の重度障害者在宅就労者の会 e-work に作成を依頼して作成し、「月刊ワークホームだより」の発刊の都度、掲載更新した。メンテナンスについても再契約している。

《XI 保護者会活動》

1 年間活動について

(1) 保護者会主催事業

新型コロナウイルスの影響で予定していた全ての行事を中止し、役員会も予定されていた半分で開催。

(2) ワークホーム高砂との共催行事

保護者懇談会を1回開催したほかは、新型コロナの感染を考慮して中止とした。

(3) 本部・企画委員会(役員会)

2 年間行事实績

	日 程	会議・行事等	内 容	参加数
5月	5月23日(日) 10:00～11:30	第1回本部・企画委員会	・総会の書面決議 ・環境整備事業開催の是非について	12名
6月	6月13日(日) 10:00～11:30	第2回本部・企画委員会	・今後の行事の開催について	12名

8月	8月 8日(日) 10:00~11:30	第3回本部・企画委員会	・今年度行事について	11名
10月	10月 24日(日) 10:00~11:30	第4回本部・企画委員会	・今年度行事について	11名
1月	1月 23日(日) 10:00~11:30	第5回本部・企画委員会	・一年を振り返る会の開催の是非について	8名

《XII 総務関係》

1 職員の採用・退職・異動（2021年4月1日～2022年3月31日）

(1) 採用

・正規	支援員	2人	(2021年 8月16日付 他)
・嘱託職員	支援員	3人	(2021年 8月 1日付 他)
・パート職員	支援員補助	7人	(2021年 7月 1日付 他)

(2) 退職

・正規職員	支援員	5人	(2021年 8月31日付 他)
・嘱託職員	支援員	2人	(2021年11月14日付 他)
・パート職員	支援員補助	4人	(2022年 3月31日付 他)

(3) 異動

・あかりの家からワークホーム高砂へ 正規職員	支援員	2人	(2021年 4月 1日付)
・ワークホーム高砂からあかりの家へ 正規職員	支援員	1人	(2022年 1月 1日付)

2 職員構成（希望山荘日笠、オリーブの家含む 2021. 3. 31現在）

(単位:人)

身分・所属 \ 職種		施設長	医師	支援員	作業支援員	支援員補助	事務員	看護師	計
正規・嘱託職員	男	1		7	1				9
	女			1			1	1	3
	計	1		8	1		1	1	12
補助職員 (パート)	男		(1)			2			2 (1)
	女					8		1	9
	計					10		1	11 (1)
合計		1	(1)	8	1	10	1	2	23 (1)

※ () は嘱託医師 ※ 年度末に退職する職員を含めて記載

3 職員年齢構成（希望山荘日笠、オリーブの家含む）

(2020. 3. 31現在)

(単位:人)

身分・所属 \ 年代	～20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代～	計
正規・嘱託職員	5	3	1	2	1	12
補助職員	1	0	0	5	5	11
合計	6	3	1	7	6	23

2021（令和3）年度

生活事業所 納豆工房なっところちゃん 事業報告

2022. 3. 31現在

《Ⅰ 沿革》

2020（令和1）年10月19日 新施設供用開始

2022（令和3）年1月1日 生活介護事業所 納豆工房なっところちゃん（定員10名）開設
（ワークホーム高砂から分割され単独事業所へ）

《Ⅱ 利用者状況》

1 定員及び契約者数

(1)定員 10人

(2)契約者数 7人

2 市町別契約者数 (単位:人)

市町名	人数
高砂市	5
加古川市	0
播磨町	0
小野市	0
姫路市	2
合計	7

3 利用者年齢構成

(単位:人)

年齢	10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		合計
	~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	~54	~59		
男性	0	0	0	0	1	1	2	0	0	4	
女性	0	0	0	0	0	2	0	1	0	3	
合計	0	0	0	0	1	3	2	1	0	7	

	男性	女性
最少年齢	36歳10か月	41歳0か月
最高年齢	49歳1か月	52歳5か月
平均年齢	43歳11か月	45歳1か月
男女平均年齢	44歳5か月	

4 利用者月別実人員・延べ人数

(1) 生活介護事業

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人員	—	—	—	—	—	—	—	—	—	8	7	7	22
延人員	—	—	—	—	—	—	—	—	—	131	139	157	427

5 入退所・変更契約の状況

(1) 入 所 0名

(2) 退 所 1名(1月7日付)

6 障害支援区分

(単位:人)

	区分3	区分4	区分5	区分6	計
高砂市	0	1	3	1	5
加古川市	0	0	0	0	0
播磨町	0	0	0	0	0
姫路市	0	1	1	0	2
合 計	0	2	4	1	7

7 知的障害の程度(「障害者(療育)手帳」の判定による)

(単位:人)

区分	重度	中度	軽度	なし	合計
男 性	4	0	0	0	4
女 性	3	0	0	0	3
計	7	0	0	0	7
比 率	100%	0%	0%	0%	100%

8 自閉症または自閉的傾向を有する者(入所時の諸書類を基に集計)

区分	男 性	女 性	計
人員	1人/4人	2人/3人	3人/7人
比率	14.2%	28.5%	42.8%

9 その他の障害、てんかん

(単位:人)

区 分	男 性	女 性	小 計	合 計
身体	肢体不自由	0	0	0
	難聴	0	0	
精神科薬	てんかん	0	0	0
延べ人数	0	0	0	0

10 利用者の通所方法

(単位:人)

	徒 歩	自 転 車	バ ス	J R	バスとJR	山陽電車	付き添い通所
男性	0	0	0	0	0	0	4
女性	0	0	0	0	0	0	3
計	0	0	0	0	0	0	7

《Ⅲ 生活支援》

1 一日のスケジュール(日課の基本)

午前 9:00 来所、体調確認等
 9:30 作業開始
 11:30 昼休憩(昼食・歯磨き)
 午後 12:30 作業開始
 15:00 作業終了、終会
 16:00 帰宅

2 昼休憩等の過ごし方

日課の中心が「作業」であることから、休憩は「食堂兼休憩室」など各自の好みの場所で自由にとってもらった。また、利用者個々の特性に応じた余暇の過ごし方、例えば読書、塗り絵等を行うなどの工夫を行った。

3 新型コロナ対策等

新型コロナウイルスの感染対策として、マスクの着用や手洗いは勿論のこと、食事場面では各テーブルに一人掛けを心がけるなど密を避けることや、常時窓を開けての換気、空気清浄機、机上にパーテーションを設置するなどの対策を行った。

また利用者、職員ともに出勤時の体温測定を徹底することで、早期発見に努めた。

4 作業以外の活動

(1) 計画する次の行事はすべて新型コロナウイルスの感染拡大により中止とした。

- ① 一泊旅行 ② のじぎくスポーツ大会 ③ ばんたん親善運動会
 ④ ばんたんゆうあい文化祭

(2) おつかれさん会

3月30日に1年間の締めくくりとして「利用者おつかれさん会」を実施し職員が製作したDVDを上映、利用者全員で鑑賞した。

《Ⅲ 利用者支援、作業支援》

1 納豆工房なっとこちゃんの利用者支援と作業支援の基本

以下の(1)～(5)を基本に支援を行った。

- (1) 利用者支援の基本は、働くことを基本にして社会性・協調性(仲間意識)を育み、仕事に自信と責任が持てるような支援を行うこと。また、個別支援計画を基本に個々の目標やテーマに沿った関わりを大切にすること。
- (2) 「働くことの基礎は生活にあり」を意識して、睡眠、食事、排せつなどの家庭における生活を見直し、「健康な生活づくり」を保護者やグループホームと連携しながら取り組むこと。
- (3) 個別支援計画の見直しを兼ねた個別懇談会を本人・保護者・管理者又はサービス管理責任者・担当支援員が同席して年2回(6か月に一度)実施すること。
- (4) 本人や保護者の希望を踏まえて就労を目標に掲げた取り組みを行うとともに、働くことを生活の柱に据えた充実した暮らしづくりの応援を積極的に行うこと。
- (5) 作業支援の基本は、「働く中でたくましく」「働く仲間を大切にする」を目標に、「大人としての働き方」を追求し、ステップアップを目指して「就労移行支援事業所」や「A型事業所」「一般就労」を目指していくこと。
- (6) 法人内の連携を図り、友愛の家の利用者のKさんを積極的に受け入れるとともに、利用者が混乱なく納豆工房なっとこちゃんで働けるよう情報の共有に努めるとともに、必要な調整を行うこと。

2 作業内容

- (1) 納豆製造作業
- (2) 販売・ショップ運営

3 主な取り組み

(1) 「納豆工房なっとこちゃん」の設置と特徴

2020年10月19日(月)、兵庫県の指定(ワークホーム高砂の従たる事業所)を受けて、高砂市曾根町に「納豆工房なっとこちゃん」を設置。希望山荘敷地内の旧納豆作業所を廃止した。事業所の機能としては、①納豆の製造を行う「作業場機能」 ②納豆の販売や周辺の福祉事業所の製品も販売する「福祉アンテナショップ機能」 ③納豆の製造や販売、製造現場の見学などをとおして障害者理解を深めていただく「啓発的機能」を主なものとして位置付けている。

納豆工房では、生産量を増やす為に大型冷蔵庫と発酵機を増設したほか、エアーシャワーや滅菌庫などの新たな設備を取り入れ衛生面なども強化した。また、福祉アンテナショップでは、他事業所の商品を取り扱うことで事業所同士の交流が持て、利用者支援の情報交換も積極的に行えるようになった。また、パート職員を増やすことで、正規職員が利用者支援を行える環境が整い、製品のチェック体制を強化し、品質の維持・向上が図られる環境が整えた。

(2) 製造の取組み

2021年6月からはHACCPの導入と運用が完全義務化への準備と取組を行った。

(3) 販売の取組み

① 直営店

自主生産する「なっとこちゃん」の販売に加え、福祉事業者等から商品を仕入れ「福祉アンテナショップ」としての機能充実を図った。

(取扱商品の提携事業所)

あかりの家、あしたばの家、いっぱい事業所、神戸光生園、こころね、コスモス事業所、ごりんや、たかはしサポートセンター、ドレミ農園、ほのか工房、真砂園、有機茶房ごえん、

わかば学園、わかばや（14事業所）

② 取扱店舗

企業、協同組合、福祉施設が運営する店舗に出荷した。

ヤマダストア株式会社全8店舗（阿弥陀、花田、北野、青山、網干、新辻井、朝霧、須磨離宮公園前）、JA兵庫南5店舗（にじいろふあーみん、ふあーみん高砂、神吉、八幡、播磨）、JA兵庫西旬彩蔵、元気工房さよう、デュピオ、ごりんや、ごえん（7法人18店舗）

※ ヤマダストア株式会社の神戸方面への事業拡大に伴い、朝霧、須磨離宮公園の両店舗への配送は、2022年2月から同社物流センターの活用（センタフィー）を開始した。

③ 通販の実施

2021年6月に開設したStores（ストアーズ）の販売を促進した。

1～3月 6件 21,980円、累計 9件 35,890円（6～12月 3件 13,910円）

加えて、株式会社健康ライフ（通販）に出荷

④ 広報の展開

Instagram フォロワー数 366件（2022年3月31日現在）

Facebook フォロワー数 100件（2022年3月31日現在）

1月18日 ラジオ関西「濱田祐太郎のひょうごユニバーサル通信」で商品紹介

3月15日 webサイト「クルール」に掲載

3月31日 まるはりムック「マイクロリズム播磨」に掲載

⑤ イベント出店等

1月7日 高砂市内こども食堂への商品の無償提供（高砂）

3月2日～3月8日 山陽百貨店（姫路）出店

3月5日 スイーツ甲子園マルシェ・農福マルシェ（神戸 デュオこうべ）出店

3月15日 コープつながるマルシェ（加古川 コープこうべ神吉店）出店

3月17日 +nukumori マルシェ（神戸 兵庫県庁）出店

3月30日～4月4日 山陽百貨店6階「兵庫のうまいものと五つ星フェア」（姫路）出店

その他、神戸聖隷事業団「光マルシェ」で週1回出荷販売。ステップハウス、延命寺、わかば学園、チャレンジに週1回配達販売。高砂市社会福祉協議会、真砂園保護者会、朝日の里保護者会、播磨高砂苑、つくし野、のじぎくの里に不定期に配達販売。

⑥ 賞歴

1月19日 兵庫県主催「農福連携コンテスト」優秀賞受賞

9 作業収入と工賃支給

（単位：円）

	事項	令和2年度	令和3年度	備考
収入	納豆販売収入	(8,809,878)	2,951,429	(4～12月 約900万円)
支出	工賃支給額	-	618,140	
	作業経費	-	2,227,817	
	消費税	-	70,000	
	計	-	2,915,957	
	収支差額	-	35,472	

10 利用者工賃の考え方と「業績賞与」について

(1) 工賃は、「工賃支給要領」に基づき支給した。この要領により、生産活動に伴う純利益を工賃財源としつつ、各利用者の作業能力の評価を行い、加減した時間給に働いた時間数を乗じて得た額を工賃とした。

(2) 工賃については、毎月第2水曜日に支給し、一時金は4月に支給する予定である。

(3) 工賃支払い実績

(単位:円)

	4月	5月	6月	7月	夏季一時	8月	9月
生活介護	—	—	—	—	—	—	—
10月	11月	12月	冬季一時	1月	2月	3月	春季一時
—	—	—	—	130,480	135,120	142,540	210,000

	年間工賃 計	平均工賃月額
生活介護 (延べ人数: 29)	618,140	21,315

《IV 健康管理・栄養管理などの支援》

1 健康管理及び保健衛生等

(1) 保健衛生会議の開催

「保健衛生会議」を月1回開催し、嘱託医師である井野医師の指導のもと、利用者の健康管理や職場の衛生管理、感染症予防、作業環境管理・改善に努めた。

(2) 定期的な健康診断と体重測定

定期健康診断については、空腹時で7月(利用者職員でワークホーム高砂として実施)と1月(職員のみ)に実施し、結果については、井野嘱託医師に報告し指導を受けた。また、医師の意見も添えて、その結果を各家庭に配布し、懇談会等で親御さんに説明するように努めた。

「体重測定」については、偶数月に実施しBMI値の算出を行い、肥満の予防に努めた。特に気になる利用者については、体重を毎日測定し記録する中で本人の意識を高めるように支援した。

また、糖尿病の利用者へは、糖尿病食を斡旋するなどの対策をおこなった。

(3) 作業環境の把握

各利用者に水筒1本を配布し、各自の一日の水分量を職員が把握しながら体調管理を行った。

(4) 感染症対策

○ インフルエンザや新型コロナウイルスなどの感染症対策全般については、看護師を講師とする学習会を開催し職員の知識を深めるとともに、感染症対策を実施した。具体的には、検温の実施、アルコールによる手指消毒、マスクの正しい装着支援、次亜塩素酸ナトリウムによるドアノブ等の拭き取りやパーテーションを利用した食事場面での非対面、十分な換気等による「3密(密閉、密集、密接)」の回避など、可能な限りの対策を実施した。また、利用者へ不要不急の外出を定期的に呼びかけた。

○ 作業終了時や食事前、トイレ使用後などについては、手洗いの励行とアルコールによる手指消毒が徹底されるよう積極的に声かけを行うなど、利用者及び職員の感染症予防に対する意識向上を図るよう努めた。

(5) 口腔衛生の徹底

昼食はゆっくりよく噛んで食べるよう、食後は歯磨きの声掛けを行った。特に上手に歯磨きができない或いは口腔内の汚れが目立つ利用者には、職員が付き添い歯磨きを徹底した。

(6) 生活習慣病の予防

健康の維持管理については、利用者の年齢が高くなるに連れ「生活習慣病」の予防対策が重要になりつつあり、定期健康診断の結果を踏まえて積極的に受診を促した。

グループホーム利用者を中心に生活習慣病罹患利用者は月1回の井野病院、歯科への定期通院の支援を行った。また風邪症候群や皮膚疾患などの出現に対しても病院受診の検討を行い、必要に応じて定期外受診の支援を迅速に行った。検査結果や内服薬などについては医師からの情報を正しく看護師から支援員に伝達するよう努めた。

(7) グループホーム利用者への支援

専任の看護師が、週に2回グループホーム利用者に対し入浴支援と身体観察を行い異常の早期発見に努めた。

2 栄養・給食について

(1) 業者との連携

利用者の昼食の充実と安心・安全な提供を目的として、業者（有限会社ひでかつ給食、株式会社いけのやフーズ）と連携して給食提供を行った。株式会社いけのやフーズの現場見学（2/7）を行い意見交換するなど、より良い給食の提供に努めた。

(2) 新型コロナ感染症対策

コロナ対策として、カレーなどを現地で盛り付けるお方法から弁当に切り替え、お楽しみメニューを提供した。また納豆「なっとこちゃん」を毎日提供した。

《V 人権擁護、虐待防止の取り組み》

1 虐待防止の取り組み

虐待防止では、担当職員が中心となって職員一人ひとりが障害者の人権について考える機会を設け、人権意識の向上をめざした。また、引継ぎ時間を活用し、虐待について施設長やサービス管理責任者が職員会議で問題提起するなど職員の意識向上に取り組んだ。

2 本年度の取り組み

職員間で互いの支援方法などについて意見が出しあえる環境や客観的に自分を見つめ直し支援をふり返ることが虐待防止につながる。定期的に職員間で話し合う場を設け自己を見つめ直し取り組みを行った。

《VI 防災への対応》

- 1 防火管理 毎月1回、防火管理自主点検表による点検を実施した。
- 2 車両管理 担当者により概ね1か月に1回、点検を実施した。
- 3 防犯設備 敷地内に防犯カメラを4箇所設置、建物内にセキュリティーシステムを設置。
- 4 防災訓練 2月避難訓練、通報訓練を実施 3月避難訓練、通報訓練、消火訓練を実施。

《Ⅶ 施設サービス評価、苦情解決》

1 施設サービス評価

本年度は受診せず

2 サービス苦情解決

保護者からの要望等を積極的に聞くように努めたほか、保護者会役員を通じ、保護者の要望等を積極的に聞くように努めた。

食堂に「意見箱」を設置し、ご本人からの意見を聞けるようにした。

苦情受付担当者： 山口 秀人

苦情解決責任者： 長谷川 博信（理事・施設長）

第三者委員： 富士原 一成（前高砂市社協理事長）、高尾 剛一（あかりの家 元監事）

《Ⅷ 地域支援、地域啓発活動など》

1 見学・実習の受け入れ等

事 項	内 容
施設見学	3月10日 東はりま特別支援学校1年生見学（27名）

3 情報の発信

毎月、「月刊ワークホームだより」に寄稿し、保護者に配布するとともにホームページで公表した。また、地域の方や関係者にも配布した。

Instagram や Facebook を活用し情報発信した。

《Ⅸ 保護者会活動》

ワークホーム高砂と一体的に実施した。

《X 総務関係》

1 職員の採用・退職・異動（2022年1月1日～2022年3月31日）

(1) 採用

正規職員、嘱託職員、パート職員 いずれも無し

(2) 退職

正規職員、嘱託職員、パート職員 いずれも無し

2 職員構成

(2022.3.31現在)

(単位:人)

身分・所属 ＼ 職種		施設長	医 師	支援員	作業 支援 員	支援員 補助	事務員	看護師	計
正規・嘱 託職員	男	1		2					3
	女			1			1		2
	計	1		3			1		5
補助職員 (パート)	男		(1)						0 (1)
	女					5		1	6
	計		(1)			5		1	6 (1)
合 計		1	(1)	3		5	1	1	11 (1)

※ () は嘱託医師 ※ 年度末に退職する職員を含めて記載

3 職員年齢構成

(2022.3.31現在)

(単位:人)

身分・所属 年 代	～20歳 代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代 ～	計
正 規・嘱託職員	3	1	1	1	0	6
補 助 職 員	0	1	1	3	0	5
合 計	3	2	2	4	0	11

2021(R3)年度 グループホーム(共同生活援助)事業報告書

1 施設の名称、定員(現員)及び所在地

名称	定員(現員)	所在地
希望山荘日笠	10人(10人)	兵庫県高砂市曾根町1704-4
オリーブの家	7人(6人)	兵庫県高砂市阿弥陀町魚橋375-16
友愛の家	6人(6人)	兵庫県高砂市曾根町1704-5

2 利用者(入居者)の状況

《希望山荘日笠》

(2022. 3. 31現在)

性別	年齢	療育手帳	障害程度	勤務先、所属等	住所地	契約日(生活ホーム含)
女性	52	A	区分6	ワークホーム高砂(生活介護)通所	高砂市	H6. 4. 1~
男性	62	A	区分5	あすなる学園(生活介護)通所	高砂市	H14. 7. 1~
女性	47	A	区分2	ワークホーム高砂(就労B)通所	高砂市	R3. 2. 1~
男性	37	A	区分3	ワークホーム高砂(就労B)通所	姫路市	H27. 10. 1~
男性	38	A	区分3	ワークホーム高砂(就労B)通所	姫路市	H27. 10. 1~
女性	41	A	区分4	ワークホーム高砂(生活介護)通所	姫路市	H28. 4. 1~
男性	49	A	区分5	ワークホーム高砂(就労B)通所	高砂市	R1. 5. 1~
女性	41	B1	区分2	ワークホーム高砂(就労B)通所	加古川市	R1. 5. 1~
男性	33	A	区分3	ワークホーム高砂(就労B)通所	高砂市	R1. 5. 1~
女性	41	A	区分5	ワークホーム高砂(就労B)通所	高砂市	R1. 5. 1~

《オリーブの家》

性別	年齢	療育手帳	障害程度	勤務先、所属等	住所地	契約日(生活ホーム含)
男性	55	B1	区分5	ワークホーム高砂(生活介護)通所	高砂市	H6. 4. 1~
男性	48	A	区分6	ワークホーム高砂(生活介護)通所	高砂市	H25. 11. 1~
男性	41	A	区分6	ワークホーム高砂(生活介護)通所	姫路市	R1. 5. 17~
男性	51	A	区分6	ワークホーム高砂(生活介護)通所	姫路市	H27. 5. 1~
男性	48	A	区分4	ワークホーム高砂(生活介護)通所	播磨町	H28. 9. 1~
男性	37	A	区分4	ワークホーム高砂(生活介護)通所	姫路市	H29. 4. 1~

《友愛の家》

性別	年齢	療育手帳	障害程度	勤務先、所属等	住所地	契約日
男性	38	A	区分5	あかりの家(生活介護)通所	高砂市	H29. 4. 1~
男性	36	A	区分6	あかりの家(生活介護)通所	高砂市	H29. 4. 1~
男性	26	A	区分6	あかりの家(生活介護)通所	高砂市	H29. 4. 1~
男性	41	A	区分5	あかりの家(生活介護)通所	姫路市	H29. 8. 1~
男性	51	A	区分6	あかりの家(生活介護)通所	加古川市	H29. 9. 1~
男性	54	A	区分4	あかりの家(生活介護)通所	播磨町	H30. 3. 24~

利用者の平均年齢=44.0歳

3 職員

(2022. 3. 31現在)

職種	常勤・非常勤・兼務等	性別	年齢
管理者	あかりの家副施設長兼務	男性	52
サービス管理責任者	あかりの家支援部長兼務	男性	50
生活支援員兼世話人	常勤	女性	51
	常勤	男性	51
	常勤	女性	36
	常勤	男性	24
	常勤	男性	24
	常勤	男性	36
	常勤	男性	25
世話人	非常勤(パート)	女性	58
	非常勤(パート)	女性	61
	非常勤(パート)	女性	51
	非常勤(パート)	女性	41

4 運営について

(1) グループホームの安定的な運営と安全で安心なホームづくり

重度の自閉症者や知的障害者が地域の中で必要な支援を受けながら安心して暮らせるグループホームとして、安定的な運営を図った。

また、夜間の安全を守るための「宿直」体制については、あかりの家やワークホーム高砂の協力を得て、法人全体で支える仕組みを継続し、職員間の連携を更に強めながら、支援体制を確保した。

さらに、定期的な生活器具の安全点検や避難訓練を実施するなど、安全で安心なホームづくりに取り組んだ。

(2) 入居者の豊かな暮らしの創造

コロナ禍であっても、豊かで広がりのある暮らしづくりのため、入居者の自由時間の充実、特に休日の過ごし方について、可能な限り多様な過ごし方が体験出来るよう努めた。

具体的には、希望山荘ではお誕生日会を実施し、オリーブの家ではビーズ暖簾の製作や感染に配慮しながらのウォーキング、友愛の家では、祝日企画としてたこ焼きパーティーやクレープ作りを実施。

(3) 入居者の健康管理の充実

入居者の健康管理の充実を図るため、定期的な医療機関への受診(歯科、耳鼻科、内科など)に加え、生活習慣病などを意識した食事の提供、適度な運動や異常の早期発見に努めた。また、体調不良等、受診の有無を考慮し、判断の上必要であれば受診同行し、受診結果を職員に共有した。

また、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、法人をあげてその予防対策に取り組んだ。

[新型コロナウイルス感染予防対策]

- 日常掃除の一環として、次亜塩素酸ナトリウムやアルコール(エタノール 70%以上)によるドアノブやテーブル、台所、トイレなどの消毒拭き掃除を取り入れた。
- 感染リスクが高まる食事の場面では、パーテーションを設置するとともに、利用者同士の間隔を空けて食事を摂るようにした。また、人数が多い場合は、前半後半に分けて食事を提供した。
- 食事前後や帰荘時など、手洗いやアルコールによる手指消毒を必ず行うように支援した。
- 3密を防ぐため、食事や入浴以外の時間は、利用者は各自室で過ごすよう配慮した。
- グループホーム内でも利用者・職員ともに常時マスクを装着し、汚染した場合や、昼食後は新しいマスクに交換した。

(4) 体験宿泊の継続実施

グループホーム希望山荘日笠とオリーブの家の空き部屋を活用し、地域の在宅障害者が親元を離れて生活体験をする「体験宿泊」を位置づけ、在宅障害者の地域生活を支援できるよう体制を継続した。新型コロナウイルスの影響もあり、今年度の利用は無かった。

(5) 支援員、世話人の専門性の向上に向けた取り組み

入居者の生活の質の向上や安全で安心な生活づくりのためには、支援員や世話人の専門性の向上が欠かせないことから、職員の資質向上のための研修機会を積極的に設けた。

(6) 地域とのつながり

地域に根ざしたグループホームをめざして、オリーブの家では清掃活動、希望山荘日笠及び友愛の家では日常のゴミ出しや隣保への広報配りなどに参加した。

令和3年度 ひょうご発達障害者支援センター 事業報告

令和4年3月31日

I 県レベル的活動

1 重点的取り組みに対する総括

(1) 高校生年代への支援の検討

グループ支援を実施している。センター、各ブランチの相談状況を踏まえグループ活動を実施した。センター他県で一人暮らしをしながら大学に通っている当事者やその保護者の話を聞く会を設けた。

グループ活動の内容をもとにした青年期（高校生年代）支援策として、県発達支援協議会 相談支援部会内で検討されることとなった。

高校生年代の相談数は増加しており、内容も複雑化している。特に、一般高校に属している人の相談が多く、所属校との連携を個々の事例を通して行って支援を行っている状況である。

(2) 支援機関への支援(コロナ禍における支援)

- ・ストレスマネジメント講座(当時者支援プログラム)の実施機関の公募を行った。4か所の申し込みがあり、年度内では3か所実施した。
- ・家庭療育支援講座は児童発達支援事業(8か所)に対し、実施定着のためのコンサルテーションを行った。今後も継続実施してもらえるように支援を行っていく。
- ・コンサルテーションについては全県で実施件数が増加した。HPIに実施要項を掲載したことによる問い合わせもあり、件数の増加につながった部分もあったと思われる。
- ・発達障害実務者養成講座をオンライン(ZOOM)により開催。全日程終了者は児童期78名、成人期47名であった。はじめて完全オンラインで実施したが、講師より実践的な内容の講義をいただけたことや、自身で支援計画の作成等を行う、グループワークを取り入れたことなどから参加者からは好評であった。
- ・市町発達障害者支援窓口への研修会をオンライン(ZOOM)により開催(参加者 57名)。発達障害の基本、面談の留意点等の内容で実施。講義だけでなく面談場面のモデルを見ながらよい点、悪い点を出すワークを行った。
- ・「発達障害について」動画は撮影内容に不備があり撮り直しを行った結果、年度内の掲載できなかった。次年度中掲載予定。

(3) ひきこもり状態の相談者への支援の充実

- ・支援が必要な相談者に対し継続的な支援を行った。
- ・クローバーCRAFTプログラムは、実施機関を増やすための取り組みを開始予定。今年度は協力してもらえ支援者を増やしていくための研修会をオンライン(ZOOM)で開催。(参加者 延108名)

(4) 他害行為や触法行為等の支援が必要な事例への支援方法の検討

- ・クローバーの相談で増加していた他害行為、触法行為のある相談者への支援について、傾向を知り、今後の支援の参考とするためクローバー内の相談者に対し調査を行った。
- ・主な項目として、「家族構成」、「診断名」、「学歴」、「発達障害以外の疾患・状態像」、「知的能力」、「通院歴の有無」、「入院歴の有無」、「今回の相談に至った問題行為」、「1:06 や 3・5 歳児健診の結果」、「保育所・幼稚園、就学時での具体的なエピソード」、「被虐待や被いじめ経験の有無」、「これまでの母親との関係性」、「これまでの経済状況、対人・社会的サポート」、「本人の障害特性の理解(受容)度」等について、選択式で調査を行った。
- ・結果から支援で必要と思われることとして、①家族や本人を取り巻く環境のアセスメントを丁寧にすることが大切さ、家族が抱え込み傾向にあること、②本人を含めた家族にも特性理解を促し、本人に適した選択肢の提示を行うことの心理教育やSST等の早期の療育の必要性などが挙げられる。

(5) 発達障害者支援センターの役割検討

- ・各市町における発達障害支援体制に関する調査を実施し、41全市町からの回答得られた。各市町に次の項目についての調査を行った。「相談窓口」、「基幹相談支援センター」、「乳幼児健診」、「保育園 幼稚園」、「児童発達支援事業所 放課後等ディサービス」、「市町療育センター」、「学校教育」、「成人期支援」、「家族支援」、「普及啓発」、「自立支援協議会等の会議」、「発達障害者支援センターに望まれる役割」
- ・「発達障害者支援センターに望まれる役割」については、「専門的な相談支援」が39市町/41市町と一番多く、「支援機関への対応助言、コンサルテーション」、「研修講師」の順で多かった。
- ・次年度、各項目の分析を行い、地域毎の発達障害者支援センターに求められる役割を検討していきたい。

2 事業実施状況

(1) 普及啓発・研修

①研修 (実 5 回 延 6 回、延参加者数 648 人)

(参考:研修会詳細) ()内は共催機関名 【】 実施会場

日付	研修会名	内容	参加者数
5.16	発達障害のある方の相談支援にあたる支援者研修会 【Zoom】	講義「クローバーについて 相談の流れ」 ひょうご発達障害者支援センター 上郡ブランチ 山内大輔氏 講義「発達障害の基本的理解」 ひょうご発達障害者支援センター 加西ブランチ 川野みか氏 講義「面談の留意点」 ひょうご発達障害者支援センター 豊岡ブランチ 鉦橋めぐみ氏 グループワーク「面談のグループワーク」 ひょうご発達障害者支援センター スタッフ 圏域ごとに分かれて情報交換	57
7.20	家庭療育支援講座研修会 【Zoom】	講義「家庭療育支援講座について 概要説明」 ①講座の実施内容(対象について、場所セッティング、他機関との連携など) ②実施にあたって(事務手続き、準備物、単独開催 質疑) ひょうご発達障害者支援センタークローバー センター長 和田康宏 令和2年度実施機関より実践報告 ①芦屋市障がい福祉課 馮 氏 ②こども支援センター スマイル 舟木氏 松下氏 講義「講座の基礎理論」 ABC分析、サポートブック・ファイル など ひょうご発達障害者支援センター クローバー 加西ブランチ 平生尚之氏 グループワーク ①講義「てつづき作成表」 ②てつづき作成表を使った模擬ワークセンター ひょうご発達障害者支援センター クローバー 山内雅樹 地域別意見交換会	85
11.6 12.27 R4.1.22	2021年度発達障害実務者養成講座(児童期) Zoom.ver. (兵庫県) 【Zoom】	【1日目】 講義「その子らしさを生かす子育て～発達障害のある子どもの理解と支援」 iPEC(子どもとおとなの心理学的医学教育研究所) 吉田友子氏 講義「自閉スペクトラム症に対する親子いっしょの療育相談の理論と実践」 宮城学院女子大学 教育学部教育学科 特別支援教育専攻 教授 白石雅一氏 講義「個別支援計画とは」 西神戸高等特別支援学校 教諭 松井恵子氏 【2日目】 講義「支援に生かすアセスメント～WISC-IVの見方」 大六 一志氏 講義「発達障害のある子どもの支援と制度～小学校・中学校・高等学校」 兵庫県教育委員会特別支援教育課 主任指導主事 赤井 育代氏 講義「発達障害のある子どもに関わる福祉サービスと機関連携」 社会福祉法人 姫路市社会福祉事業団 相談支援事業所 ぱっそ・あ・ぱっそ 所長/相談支援専門員 濱 亜紀子氏	全日程 修了者 78 1日目 84 2日目 82 3日目 84

		<p>【3日目】 講義「発達障害のある子どもを支える家族の支援」 立正大学 名誉教授 中田洋二郎氏 講義「保護者の方の経験談～発達障害のあるお子さんの一事例～」 保護者 講義「個別支援計画 評価・助言」 西神戸高等特別支援学校 教諭 松井恵子氏</p>	
R4.3.19	<p>2021年度発達障害実務者養成講座(成人期) Zoom.ver. (兵庫県) 【Zoom】</p>	<p>【1日目】 講義「発達障害と精神疾患—鑑別の困難さと対応—」 揖保川病院 副院長 中井祥博 氏 講義「発達障害の心理アセスメント—心理検査を用いて—」 演習「アセスメントのためのフォーマットの練習」 ひょうご発達障害者支援センター 相談支援員 山内雅樹</p> <p>【2日目】 講義「成人期の支援と状況」 ひょうご発達障害者支援センター 和田康宏 講義「就労支援—相談、評価、ジョブマッチング、定着支援について—」 兵庫障害者職業センター 所長 市川浩樹氏 講義「支援方法 ストレスマネジメント」 「支援方法 問題解決」 「支援方法 対人スキル支援」 兵庫教育大学 特別支援教育専攻・障害科学コース 教授 井澤信三 氏</p> <p>【3日目】 講義「グループワークの進め方」,グループワーク「5分レポートの演習」 講義「ケース検討会議の進め方」,グループワーク「ケース検討会議の演習」 講評・質疑応答・意見交換 大正大学 心理社会学部 臨床心理学科教授 近藤直司 氏 講義「ストレスマネジメント講座について」 ひょうご発達障害者支援センター 山内雅樹</p>	<p>全日程 修了者 47 1日目 53 2日目 50 3日目 48</p>
R4.3.10 R4.3.11	<p>「ASD特性を背景とするひきこもり状態にある人の家族支援」クローバーCRAFTプログラム研修 (兵庫県) 【Zoom】</p>	<p>【1日目】 講義『発達障害とひきこもり』 札幌学院大学 教授 山本 彩 氏 講義『CRAFTによる家族支援』 宮崎大学 教授 境 泉洋 氏 講義『クローバーCRAFTプログラムの実践』 ひょうご発達障害者支援センタークローバー加西ブランチ 主任相談支援員 平生 尚之 氏 グループワークⅠ 『CRAFT実施における連携』 事例発表 ひょうご発達障害者センター クローバー 山内 雅樹 氏 ファシリテーター: ひょうご発達障害者 センター クローバースタッフ SV 境 泉洋 氏、山本 彩 氏</p> <p>【2日目】 講義『危機介入時の連携』 札幌学院大学 教授 山本 彩 氏 グループワークⅡ『事例に基づく危機介入時の連携』 事例発表 ファシリテーター: ひょうご発達障害者支援センタークローバー 加西ブランチ 主任相談支援員 平生 尚之 氏 講義『ひきこもり相談のアセスメント』 宮崎大学 教授 境 泉洋 氏 全体での質疑と総括 境 泉洋 氏、山本 彩 氏</p>	<p>1日目 52 2日目 53</p>

②講師派遣(県レベル機関の研修会、就労支援に関する講師派遣など)

(延 12 件 延参加者数 694 人)

【労働】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
6.18	障害者職業生活相談員認定講習「障害特性と就労について」	48	和田	神戸
8.5	神戸地域障害者雇用促進セミナー 「発達障害のある就労 雇用する企業の方に向けて」	52	和田	神戸
8.17	職場適応援助者養成研修「障害特性に応じた就業支援の方法(発達障害)」	12	和田	神戸
11.17	職場適応援助者養成研修「障害特性に応じた就業支援の方法(発達障害)」	15	和田	神戸
R4.3.2	阪神地域障害者雇用促進セミナー 「発達障害のある就労 雇用する企業の方に向けて」	43	和田	阪神南

【福祉】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
6.24	GONGO 相談員会議「就学前児童への発達障害支援について」	32	西窪	神戸
R3.2.25	強度行動障害支援者養成研修(実践研修)「アセスメントの方法Ⅰ、Ⅱ」	63	和田	東播磨
R3.2.28	強度行動障害支援者養成研修(実践研修)「ファンリテーター」	63	和田	東播磨

【教育】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
10.29	令和3年度 高等学校における通級による指導実践研究協議会 「パネルディスカッション」	257	杉原	神戸
11.15	兵庫県特別支援教育振興会設立 50 周年記念事業「共に学び、共に生きる 社会をめざして～支えつながるひょうごの学び～ パネルディスカッション」	55	和田	神戸

【医療】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
R4.2.10	かかりつけ医対応力研修「成人期の発達障害のある人の支援」※	25	和田	神戸

※ハイブリット型研修(リモートと集合)のため、参加者数は会場での参加数。

【行政】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
12.2	兵庫県警 性犯罪捜査専科授業「発達障害の理解と支援」	29	和田	神戸

③研究発表、論文、分担執筆等

内容	担当
あかりの家 事例研究会 「ひょうご発達障害者支援センター 実践事例集」	杉原、山内、西窪

④ホームページの運営、管理

内容	概要(件数、内容他)
更新回数	21 回(研修会情報等)
訪問者数	延 22,501 人(月平均延人数:約 1800 人)
見られたページ数	延 70,709 ページ

3 調査・研究

- ・各市町における発達障害者支援調査：各市町で行う発達障害者支援の現状と課題を把握し、クローバーが担える役割を検討することを目的に調査を実施した。

4 機関連携

(1) 連絡協議会の実施 実施回数 (延 2 回)

協議会名	回数	日時	場所	内容	参加者数
連絡協議会	第1回	7.1	オンライン (ZOOM)	1 委員紹介 2 スタッフ紹介 3 会長 副会長 選任 4 ひょうご発達障害者支援センター全県における令和2年度 事業報告 5 ひょうご発達障害者支援センター、ブランチ 令和2年度 事業報告 6 討議「ゲーム インターネット依存 について」	21 団体 37 名
	第2回	R4.3.17	オンライン (ZOOM)	1 ひょうご発達障害者支援センター全県における令和4年度 事業計画(案)について 2 ひょうご発達障害者支援センター、ブランチ 令和4年度 事業計画(案)について 3 討議「ストレスマネジメント講座」 4 行政機関による令和4年度 事業計画	21 団体 32 名

(2) ネットワーク会議等への出席 実施回数 (延 27 件)

主な会議名	役割	担当
厚生労働省 発達障害の情報提供等事業に関する運営会議	委員	和田
発達障害者支援センター 全国連絡協議会 役員会	副会長	和田
全日本自閉症支援者協会	理事	和田
兵庫県 発達障害者支援協議会	委員	和田
	委員	和田
	委員	和田
	委員	和田
	委員	和田
	委員	和田
	委員	和田
	委員	和田
	委員	和田
	委員	和田
	委員	和田
	委員	和田
	委員	杉原

(3) ブランチ業務調整会議 (年 9 回)

センター各ブランチ間の業務上の調整、意見集約、関係機関情報の集約、活動に対する意見交換等を行う。兵庫県障害福祉課も参加した。新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み、すべて web で開催した。

5 県委託事業

事業名	内容
発達障害実務者養成講座	発達障害実務者養成講座(児童期、成人期)の実施
ひきこもり状態にある者の家族支援プログラム人材養成等事業	CRAFT 支援者研修の実施、普及促進のためのリーフレットの作成 実践のためのマニュアルの作成

II ブランチ的機能(担当圏域:東播磨、淡路)

1 重点的取り組みに対する総括

(1) 市町相談支援窓口機関への支援の充実

・**淡路地域** 月に2回の巡回相談を継続的に行いながら、同席されることが多い相談支援専門員に支援方法等の助言を行う。また、自立支援協議会の研修会を通して、支援窓口の機関の支援力向上を図った。

・**東播磨地域** 支援調整会議を通して、市町窓口担当職員と新規事例に対し対応方法の検討、助言を行った。また、既相談事例に対しても、支援方法の助言を行うなど、市町窓口の支援力向上を図る取り組みを行った。

(2) 家族支援の充実

・高校生年代の家族のグループ活動では、進学をテーマにした保護者グループとして、他県で一人暮らしをしながら大学に通っている当事者やその保護者の話を聞く会を設けた。女性の当事者にお話をさせていただき、今まで男性ばかりの話から初めて女兒の保護者にも参考になるお話の機会となった。また、両親で参加された方もあり、本活動の広がりが感じられる。

・卒業後の進路として福祉サービスも検討する高校生のグループでは、実際の事業所見学を、オンラインと現場で行った。事業所見学は一人では敷居が高いようで、複数で伺うことで活発に質問される姿が見られた。

・中学生の保護者のグループも実施した。内容は高等特別支援学校を希望されている方に向けて、現在実際に通っている生徒さんとその保護者にお話いただいた。『友達ができて、とても楽しい』という当事者の話を聞き前向きに検討する気持ちと、「(うちの子は)あんなにしっかりしていないけど大丈夫かしら…」という不安がせめぎあっておられるようであった。

・ひきこもり状態の家族への支援において、本人の物理的な変化は乏しいが、家族内での関係性の変化(例:本人の攻撃性が無くなったことで家族の精神面での安定が見られる)が継続していると考えられる事例があった。本人の行動の理由を共に考えたり、家族として出来ている良い関わりを言語化して伝えることで、家族の安心感や本人理解に繋がっていると感じる。

2 事業実施状況

(1) 普及啓発 研修

①研修

○実施回数(実 1 回 延 1 回 参加者数 0 人)

(参考:研修会詳細) ()内は共催機関名 【】 実施会場

日付	研修会名	内容	参加者数
12.13	ペアレントメンター講演会 (兵庫県自閉症協会 県立こども発達支援センター) 【県立こども発達支援センター】	講演「就学に向けての準備と入学後の学校生活について」 ペアレントメンター	7

②講師派遣

○実施回数(延 4 件 延参加人数 53 人)

【教育】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
7.5	淡路高校「生徒の特性と進路指導」	8	杉原	淡路

【福祉】

日付	研修会名・内容・講義名	参加者数	職員名	圏域
8.5	スマイルはりま職員研修「訪問支援の留意点」	6	西窪	東播磨
11.1	社会福祉法人 明桜会「発達障害について」	6	和田	東播磨
11.27	淡路障害者自立支援協議会 障害者理解促進研修 「発達障害の支援を通して見えてくるもの」	43	和田	淡路

3 コンサルテーション

(1) 関係機関へのコンサルテーション 実施回数 (実 2 か所 延 3 件)

職員の対応方法や環境整備に関する助言・指導を訪問により実施。

実施対象機関	圏域	日程	担当
いなみの特別支援学校	東播磨	7.12 12.8	杉原
神戸製鋼	神戸	10.21	和田

(2) 家庭療育支援講座 実施回数(実 2 か所 延 8 件)

講座実施に当たり、児童発達支援事業所のスタッフへの技術付与を訪問により実施

実施対象機関	圏域	日程	担当
こども支援センター スマイル	東播磨	7.12、10.1、10.15、11.5、11.19、12.3、12.17、R4.1.24	山内
居場所ニーム	東播磨	9.29、10.13、10.27、11.1、11.24、12.1	和田

4 相談支援

(1) 相談・発達・就労支援状況

①相談支援 (実 263 人、延 1,239 件) (昨年度:実 276 人、延 1,369 件)

前年度に比べ、実人数が微減であるが、延べ件数は130件減少している。年齢別の割合は、前年度とほぼ変わりなかった。就学前児～小学校低学年の相談では前年に引き続き本人へのかかわり方に関するものがであった。「朝の準備がうまくできない」「気になることがあると指示が入らない」「気持ちの切り替えがうまくできない」といった内容のものであり、その状況を整理しながら具体的な関わり方を環境調整も含め検討することに時間をかけている。また小学校就学後は環境の変化から学校適応に時間を必要とするケースもあり、適応までの道筋を保護者や学校と共有し、その時々状況に応じた支援を行い、適応に繋がったケースがあった。

小学生高学年では、思春期に向けての支援や診断を受けたばかりで具体的にどう支援していけばよいかといった相談が見られた。中高生は、ゲーム時間を巡って保護者とぶつかる状態への対応や、不登校への対応、特に、幼少期に既に診断、支援を受けており、中学入学のタイミングで支援から離れていた人が不適応を起こして来所というパターンが散見された。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたこととしては、知的な遅れのない発達障害の方が、今までは一般向けのレクリエーションなどを複数利用して乗り切っていたが新型コロナウイルスの影響でそれらの活動がなくなり、家庭内でぶつかることが増え、入院せざるを得なくなった事例も見られた。

小、中、高ともに性的な問題を含む問題行動のある事例への対応、中高生は触法の事例が増えている。

大学生の相談において、①卒業年度の場合には、今後の方向性の選択肢として、長期休みを利用して職能評価を受けることや福祉サービスの見学・体験をしてもらう等の具体的な動きを意識した。同時に、第一目標として、大学を卒業できるように学業への専念の声掛けや確認も行った。②入学年度の場合には、大学への不安を整理し、学内の相談場所の情報提供を行った。同時に、ご本人だけではなく親御さんの不安も高い状態が見受けられた際には、共感をしつつ、具体的な対応策を検討した。

ひきこもり傾向の相談においては、定期的にクローバーでの相談を行いながら、ご本人の興味がありそうな情報を伝え、具体的に動く(事業所の見学や体験)ことを心がけた。その結果、福祉サービス利用に繋がった方もいれば、現状を変えることへの不安や抵抗を示した方もおられた。外部機関への所属自体を目的とするのではなく、ご本人のペースで話しを進めていく中で、安心・納得できるような方向性での関わりを今後も続けていく。

その他の成人期の相談として、自殺企図等の精神面へのアプローチ(自殺そのものの話にも耳を傾けた上で、こちらの想いを伝える等)や日常生活における困りごとを共に考えるような相談も引き続き行っている。

②発達支援 (実 46 人、延 236 件) (昨年度:実 26 人、延 96 件)

前年度より実人数、述べ件数ともに大幅に増加した。

就学前～小学校低学年の児童ではプリントや教材を通して課題に取り組んでもらっている。特に就学児では書字の苦手さを訴える児も多数見られたため、児の苦手さへの評価も含めプリントなどの課題に取り組んでもらい、保護者に対して見立てを伝えるようにしている。就学前の児童においても就学後を見越し、「要求されたことに取り組むことで褒められ、うれしい」という体験を積み重ねられるよう、運筆や迷路、シール貼りや数を題材としたプリントに取り組んでもらった。児によっては繰り返しの中でルールが定着し、「僕できるで！」と自信をもって取り組んでくれる例も見られている。

小学校高学年～中学生では、不登校の事例で既存の福祉サービスに繋がらない方や既存の福祉サービス事業所ではうまく行かない方について、定期的来所が継続できる場所として利用した。中学生では、学習面においてアルファベットや単語の習得に躓いている事例が多く、それぞれの特徴に応じて取り組んだ。また、高校生の本人の希望でコミュニケーションの練習にも取り組んだ。保護者向けには、進路をテーマとして、高校生①大学進学を目指す高校生の保護者 ②福祉サービスを検討する高校生の保護者のグループの他、中学生で、高等特別支援学校を目指す中学生の保護者のグループも行った。特に大学進学をめざす高校生の保護者グループは、能力が高く進学校に通う子どもの保護者が多いが、子どもが受けられる支援、福祉サービスについて関心が高かった。

成人期では、未診断や診断があっても最近検査を受けていない相談者に対して、必要と感じた際に知能検査を実施した。結果として出た値のみに注目するのではなく、能力としての得手不得手が現れている凸凹を伝えた上で、現在の困りごととの関連を考察し、今後の道筋を提案するようになった。

③就労支援 (実 63 人 延 239 件) (昨年度:実 40 人 延 186 件)

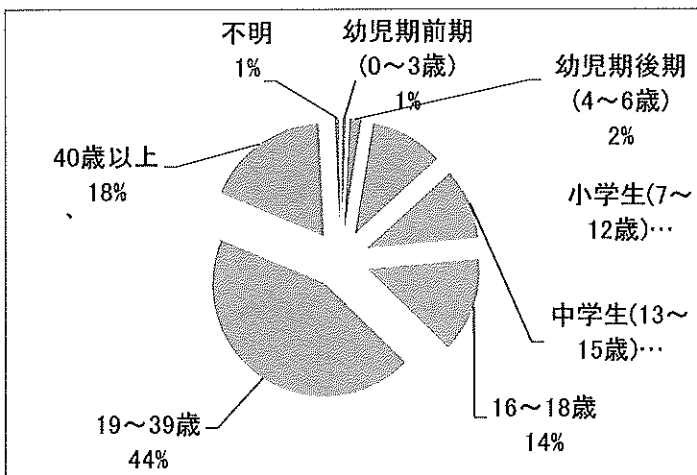
昨年度に比べ、実人数・延件数ともに大幅に増加した。

相談内容としては、仕事上での困りごとが多く、話しを聞きながら整理を行い、本人の困りごとが少しでも軽減出来るような方向性を共に検討するようなことが多かった。その中で、本人の頑張りや新たに出来るようになったこと等の変化があれば、言語化をして肯定的に伝えた。但し、本人からの話はあくまでも本人目線になるので、職場での実際に関しては、職場の方や他の支援機関の方に確認出来る状態であれば確認をして、詳細を把握するように努めている。

また、これまで同様に、就労をこれから目指したり、休職中で復職に向けて改めて自身の仕事上の得手不得手を知る一助として、職能評価等を受けてもらうことが多かった。

(参考データ)

(a)相談支援(実人数)



(b)発達支援(実人数)

	人数	%
幼児期前期(0～3歳)	0	0
幼児期後期(4～6歳)	4	9
小学生(7～12歳)	14	30
中学生(13～15歳)	9	20
16～18歳	15	33
19～39歳	4	9
40歳以上	0	0
不明	0	0
合計	46	100

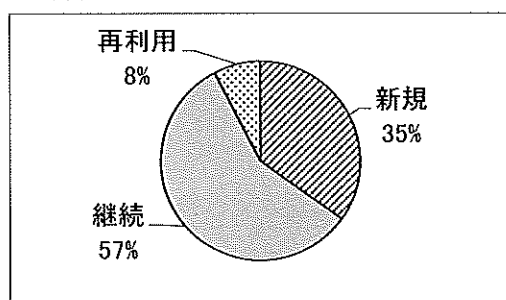
(c)就労支援(実人数)

18歳以下	0
19～39歳	43
40歳以上	20
不明	0
合計	63

(d)ライフステージごとの障害種別(相談支援実人数)

障害種別	幼児期前期 (0~3歳)	幼児期後期 (4~6歳)	小学生 (7~12歳)	中学生 (13~15歳)	16~18歳	19~39歳	40歳以上	合計
自閉症(知的障害の有無不明)	1	0	3	0	0	2	2	8
自閉症(知的障害を伴う者)	0	0	3	3	2	8	1	17
自閉症(知的障害を伴わない者)	0	1	4	0	0	3	0	8
アスペルガー症候群	0	0	0	0	4	12	6	22
広汎性発達障害(知的障害の有無不明)	0	1	0	8	7	12	3	31
広汎性発達障害(知的障害を伴う者)	0	0	1	0	4	9	0	14
広汎性発達障害(知的障害を伴わない者)	0	0	0	5	4	13	5	27
AD/HD	0	0	5	2	2	14	6	29
LD	0	0	0	0	0	1	0	1
その他(発達性言語障害・協調運動性障害)	0	0	0	1	1	11	3	16
不明(未診断も含む)	1	3	12	8	12	31	21	88
合計	2	5	28	27	36	116	47	261
「不明(未診断も含む)」割合	50%	60%	43%	30%	33%	27%	45%	34%

(e)新規・継続・再利用の内訳(相談支援 実人数)



(f)ライフステージごとの障害者手帳取得状況(相談・実人数)

手帳	幼児期前期 (0~3歳)	幼児期後期 (4~6歳)	小学生 (7~12歳)	中学生 (13~15歳)	16~18歳	19~39歳	40歳以上	合計
A	0	0	0	1	0	6	1	8
B1	0	0	2	0	1	5	1	9
B2	0	1	5	4	8	20	6	44
精神保健福祉手帳	0	0	0	0	0	12	10	22
無	2	4	22	21	27	73	29	178
合計	2	5	29	26	36	116	47	261
「無」割合	100%	80%	76%	81%	75%	63%	62%	68%

(g)年齢ごとの相談主訴

	幼児期 (0～6歳)	小学校 (7～12歳)	中・高生 (13～18歳)	19歳以上
相談の対象となっている児(者)が発達障害かどうか知りたい	1	1	0	3
現在の生活に関することや、家庭で家族ができることを知りたい	5	22	39	91
利用できる制度について知りたい(手帳、年金、手当、障害福祉サービスなど)	0	0	4	6
診断・相談・支援を受けられる機関について知りたい	3	0	2	12
現在通学している学校、利用しているサービス等に関する相談をしたい	0	15	29	32
進路や将来の生活に関する相談をしたい	1	2	10	20
対応困難な状況の改善について相談したい(強度行動障害、ひきこもりなど)	0	1	10	19
今後の就労について相談したい	0	0	0	9
現在勤めている職場に関する相談をしたい	0	0	0	13
その他	0	2	7	13

5 機関連携

(1)発達障害者支援体制の整備及び機関連携のためのネットワーク会議等への出席
実施回数(延 15 件)

会議名	役割	担当
加古川市 障害者雇用連絡会議	委員	和田
障害者自立支援協議会 ことも部会	委員	杉原
高砂市 地域自立支援ネットワーク会議	委員	和田
教育委員会	専門家チーム委員	杉原

(2)個別調整会議 実施回数(延 24 件)

成人期 中学生、16～18歳の順で多かった。主訴は「現在通学している学校、利用しているサービス等に関する相談をしたい」が一番多く、所属もしくは通っている所での支援方法の検討が会議で話し合われていることが多い。また、ひょうご発達障害者支援センターの役割として、対応方法の助言を求められることが多かった。

(3)付置施設 あかりの家との連携

	内容
児童デイ サービス あかりの家	・継続的な専門的療育を行うことが有用と思われる事例 (自閉症、軽度知的障害)
障害者支援施設 あかりの家 地域支援センター あいあむ	・福祉サービスの利用が必要な事例について、相談支援専門員と連携をした事例が多数 ・サービス等利用計画の作成において連携した事例

6 調査・研究

- ・各市町における発達障害者支援調査：各市町で行う発達障害者支援の現状と課題を把握し、クローバーが担える役割を検討することを目的に調査を実施した。

Ⅲ 職員体制

1 相談時間 (月)～(金)の平日 9:00～17:00

2 担当

① 管理責任者 センター長	就労支援 担当	和田 康宏
② 相談支援員	発達支援 担当	杉原 利恵
③ 相談支援員	発達支援 担当	西窪 健太
④ 相談支援員	相談支援 担当	山内 雅樹

担当理事 坊垣 勝彦(あかりの家 施設長)

3 職員研修

研修名	日付	受講者
発達障害者支援センター全国連絡協議会 研修会	6.4～6.5	和田
発達障害者支援センター全国連絡協議会 近畿ブロック研修会	12.12	和田、杉原、西窪

4 職員の資格・免許取得状況(含、任用資格、受講証明)

資格・免許	人	資格・免許	人
公認心理師	3	教諭	2
臨床心理士	3	WAIS-III知能検査研修受講	1
社会福祉主事	1	K-ABC II ベーシック講習会	1

2021 (R. 3) 年度

地域支援センター あいあむ 事業報告書

2022. 3. 31 現在

‘2021 (R. 3) 年度 地域支援センター あいあむ 実施事業

	事業名	事業開始年月日	
1	東播磨臨海地域における相談支援機能強化事業	’ 06 (H. 18). 5. 22	2市2町委託事業
2	障害児相談支援事業	’ 12 (H. 24). 4. 1	高砂市指定
3	計画相談支援事業	’ 12 (H. 24). 4. 1	高砂市指定
4	指定一般相談支援事業所(地域移行・地域定着)	’ 13 (H. 25). 4. 1	県指定
5	障害者等相談支援コーディネート事業	’ 07 (H. 19). 10. 1	県委託事業
6	高砂市障がい者自立支援協議会運営等事業	’ 13 (H. 25). 6. 1	高砂市委託事業
7	高砂市障がい者基幹相談支援センター	’ 19 (R. 1). 4. 1	高砂市委託事業

地域支援センターあいあむは、入所施設で培った自閉症療育等の専門性等を“地域に返していく”という方針のもと、ご本人・ご家族が地域で安心して暮らすことが出来るように「相談支援」「地域づくり・人材育成」の2本柱を中心に、7つの事業を展開し東播磨圏域における地域支援の拠点を目指して活動を行った。

今年度も昨年同様、新型コロナウイルスに翻弄された1年であった。業務については在宅テレワーク、事務所の人数制限を継続しながら感染拡大防止に努め、状況を見ながら在宅回数や訪問、会議開催状況の検討を重ね国の動きに合わせて最善策をとって対応してきた。

どんな状況でも「本人中心支援」を念頭に、出来る範囲で地域支援活動に取り組んだ。新型コロナウイルス対応により新しくオンラインでの会議なども浸透し、業務の効率化などのについても学んだ1年でもあった。

I 実施事業

1 東播磨臨海地域相談支援事業（2市2町相談支援事業）

		加古川市	高砂市	播磨町	稲美町	計
		H29年9月末終了	H31年3月末終了	4件 (4人)	27件 (13人)	31件 (17人)
相談形態	訪問			0件	0件	0件
	来所			3件	5件	8件
	同行訪問			0件	0件	0件
	電話			1件	4件	5件
	メール			0件	0件	0件
	ケア会議			0件	0件	0件
	関係機関			0件	1件	1件
	その他			0件	17件	17件

- ・06年5月22日から、加古川市・高砂・播磨町・稲美町より委託を受け事業開始
- ・週1日。播磨町は福祉会館・稲美町は社会福祉協議会で2時間窓口相談実施。
- ・新型コロナ感染で緊急事態宣言、まん延防止措置発令時は当法人内事務所にて電話対応のため待機し実施。
- ・基幹相談支援センター開設に伴い加古川市は29年9月末で終了。高砂市は平成31年3月末で終了

2 障害児相談支援事業 ※終了者等も含む

06年10月1日より事業開始(県指定) その後、制度改正により12年4月1日から高砂市指定により事業開始
 計画作成者 114名 (高砂市81名 加古川市32名 播磨町1名)

3 計画相談支援事業 ※終了者等も含む

06年10月1日より事業開始(県指定) その後、制度改正により12年4月1日から高砂市指定により事業開始
 計画作成者 393名
 (高砂市:220名 加古川市110名 播磨町14名 稲美町16名 神戸市9名 加東市1名
 姫路市:17名 小野市:1名 豊岡市:1名 名古屋市:1名 尼崎市:2名 大津市:1名)

4 指定一般相談支援事業所 (12年4月1日より県の指定により事業開始)

- (1) 地域移行支援 実施者 3名 (高砂市2名 加古川市1名)
 (2) 地域定着支援 実施者 6名 (加古川市2名、高砂市4名)

5 障害者等相談支援コーディネーター事業 (県新規事業としてH19. 10. 1あかりの家に委託)

- (1) 市町相談支援事業への後方支援 (困難事例等への対応・助言、情報提供など)

区 分	助言・指導の区分				合計	
	相談支援体制等の構築・運営に必要な助言・指導	相談支援ケースへの対応等に必要な助言・指導	その他	左記のうち医療的ケア児関係		
相談関係	①指定相談支援事業所従事者	111	156	36	15	303
	②市町職員 (障害福祉担当課に限る)	65	4	9	11	78
	③上記以外の相談支援関係者 (例：障害者相談員、民生委員等)	82	49	2	8	133
	④保健・福祉関係者(市町職員含む)	88	4	7	17	99
	⑤教育関係者(市町職員含む)	34	6	2	23	42
	⑥労働関係者(ハローワーク等行政関係者)	0	0	0	0	0
	⑦企業等	0	0	0	0	0
	⑧障害福祉サービス事業者等	49	35	38	2	122
	⑨その他(協議会事務局・委員等、育成会・各団体)	68	33	26	11	127
	⑩障害者本人	3	0	2	2	5
	⑪障害者の家族等	2	0	1	0	3
合計	502	287	123	87	912	

(注) 件数・・・助言・指導の対応回数を記載

(2) 研修会の開催

開催日時・講演会名	開催場所	内 容	参加者数
12/17 医療的ケア児等コーディネーター連絡会 兼 チーム支援ネット第1回 全体研修会	加古川 総合庁舎 2階会議室	講演 『医療的ケア児支援法が施行されて～医療的ケア児等コーディネーターや相談支援専門員に期待すること～』 尼崎市役所 北部障害者基幹相談支援センター 講師 松原 末佳 氏	53名、 相談支援事業者 医ケアコーディネーター 行政、 福祉 教育

(3) 圏域内及び圏域間の相談支援関係機関、療育係機関の連携のための業務

- ① 県関係機関、市町、医療機関、就労機関、特別支援学校、施設、事業所などの連携
- ② 就業・生活支援センター、加古川市立就労支援センターとの連携
- ③ 現存する各種障害者児団体・ネットワーク会議(雇用・地域生活・相談事業 権利擁護)に参加
- ④ 3市2町及び圏域における地域自立支援協議会への参加(年間33回)
- ⑤ 東播磨相談事業者チーム支援ネットの運営(研修会、連絡会)
- ⑥ 東播磨圏域3市2町基幹相談支援センター連絡会開催(4回)
- ⑦ 第1回 東播磨圏域 医療的ケア児等コーディネーター連絡会 開催(1回)
- ⑧ 東播磨圏域3市2町自立支援協議会連絡会こどもに関する情報交換会開催(1回)

6 高砂市障がい者自立支援協議会運営等事業（高砂市新規事業として13. 6. 1あかりの家に委託）

(1) 会議活動回数

- ①全体会1回 ②運営会議1回 ③相談支援専門員による地域課題抽出の会1回④こども部会5回 ⑤こども事業所ワーキング3回⑥保護者向けハンドブック作成ワーキング8回 ⑦防災ワーキング4回 ⑧医療的ケアワーキング7回 ⑨くらし部会5回 ⑩ヘルパー事業所連絡会2回 ⑪就労ワーキング12回 ⑫事務局会議12回 研修会1回 計62回

※各会議における案内文の送付、議題表・名簿作成、資料作成、議事録作成、調整、会議の進行など（全体会は除く）

(2) 高砂ユニナビ

- ① ユニナビサッカー教室1回（2回コロナで中止）
 チェントクオーレハリマとのコラボレーション企画
 ② 本人会0回（4回コロナで中止）（当事者が自分らしい生活へ向け一緒に語るサロン）
 ③ ユニナビシネマ1回 「普通に死ぬ～いのちの自立～」
 ④（自己肯定感を育むための）Tシャツデザインコンテスト1回

(3) 高砂市福祉マップ 障がい者編 更新作業
 4Citiesmap(2市2町東はりま圏域障害福祉事業所検索の設置)

(4) ホームページ管理・更新等

- ①チラシ作成
 ②ホームページ掲載 計57件
 ●SNS掲載（Instagram、Facebook、LINE@）合計40件
 <参考 ホームページ閲覧ページ数14,555件（解析ソフトGoogleアナリティクス）>

7 高砂市障がい者基幹相談支援センター（高砂市新規事業として19. 4. 1あかりの家に委託）
 別紙事業報告 参照

Ⅱ 職員研修

1 職員研修内容（基幹センター職員は別紙記載）

月	研修内容	研修地	参加者
5/28	第18回日弁連高齢者・障がい者権利擁護の集い	オンライン	濱口
6/25	障害がある学生への進路等支援について	神崎郡市川町	春名
6月	兵庫県主任相談支援専門員研修 6月11、12、13、26、27	オンライン	濱口
6/19	令和3年度 相談支援ネットワーク 記念講演 「相談支援に未来はあるのか？その2」	加古川市	石井、藤田
6/28	福祉教育プログラムへの社会モデルの導入について	高砂市	金鹿、春名
9/15	精神障害者への関りと支援について	高砂市	濱口、西野、石井、松原 藤田、春名、梶原、富木、金鹿
10/14	地域で考える防災講座～福祉専門職編～	オンライン	石井、松原
12/17	医療的ケア児等コーディネーター連絡会 チーム支援ネット研修会『医療的ケア児支援法が施行されて』	加古川市	濱口、松原
2/18	兵庫県 防災と福祉の連携促進シンポジウム	オンライン	西野、石井
3/1	基礎講座精神疾患の基礎理解	播磨町	藤田
3/10	意思決定支援	オンライン	濱口 春名
3/17	令和3年度兵庫県サービス管理責任者等更新研修	オンライン	西野

Ⅲ 実習受入

(1) 学生、施設職員等

新型コロナウイルスの影響のため、21年度は受け入れなし。

Ⅳ 関係団体等への役員や職員派遣等 (基幹センター職員は別紙記載)

県立東はりま特別支援学校 学校評議員会	学校評議員	13. 6～	濱口
一般社団法人兵庫県相談支援ネットワーク	副代表理事 事務局長	13. 11～ 17. 6～	濱口
東播磨相談事業者チーム支援ネットワーク	主宰者、構成員	08. 5～	濱口、西野、石井、松原、梶原、春名、藤田、富木、金鹿
加古川雇用(連絡)調整会	委員	07. 11～	濱口
兵庫県合理的配慮アドバイザー	委嘱	16. 5～	濱口
兵庫県医療的ケア児支援関係者連絡会議	委員	17. 9～	濱口
加古川市 成年後見制度利用促進及び権利擁護制度検討委員会	委員	19. 5～	濱口
兵庫県障害福祉審議会「情報」分科会	委員	20. 1～7	濱口
播磨町防災と福祉の連携促進事業検討委員会	委員	21. 2～ 22. 1	濱口

Ⅴ 地域自立支援協議会への役員や職員派遣等 (基幹センター職員は別紙記載)

兵庫県	自立支援協議会	相談支援部会オブザーバー	08. 8～	濱口
東播磨圏域	自立支援協議会	委員	09. 12～	濱口
明石市	地域自立支援協議会	運営会議 メンバー	13. 12～	濱口
加古川市	障がい者自立支援協議会	全体会 委員	09. 12～	濱口
		くらし・こども、しごと・差別解消	10. 5～	濱口
		相談支援	18. 4～	濱口
播磨町	地域自立支援協議会	推進会議 オブザーバー	10. 6～	濱口
		くらす部会委員/オブザーバー	10. 7～	春名 /濱口
		はたらく部会オブザーバー	10. 9～	濱口
		全体会オブザーバー	11. 4～	濱口
稲美町	地域自立支援協議会	運営会議 メンバー	11. 4～	濱口
		各部会 オブザーバー	11. 4～	濱口
高砂市	障がい者自立支援協議会	全体会構成員/ オブザーバー	08. 2～	濱口
		運営会議 /オブザーバー	10. 6～	濱口
		くらし部会委員/ オブザーバー	12. 4～	石井 /濱口
		ヘルパー事業所連絡会	19. 5～	石井 /濱口
		こども部会委員/オブザーバー	12. 5～	西野 /濱口
		医ケアワーキング	21. 8～	濱口
		課題抽出の会	17. 3～	相談員全員
		本人会 高砂ユニナビ	18. ～	随時

VI 講師、発表、寄稿等 (基幹センター職員は別紙記載)

兵庫県	相談支援従事者初任者研修	4クール×5日=20日	講師 司会他	濱口
	兵庫県医療的ケア児等 Co. 養成研修	10/11, 13 12/13, 14		
	兵庫県相談支援基礎研修	8/6		
播磨町協議会 推進会議 「最近の福祉の動向について」		6/24	講師	濱口
ハピネスさつま研修会 「虐待防止研修」		7/7	司会	濱口
明石基幹相談支援センター研修会 「本人中心支援の視点について」		7/15	講師	濱口
のじぎく支援学校 人権教職員研修会 「障害者の生きにくさと差別解消」		8/24	講師	濱口
荒井公民館人権講座 障害の理解について～夢をもとめてMさんの暮らしから～		8/26	講師等	濱口
北浜公民館人権講座 障害の理解について～夢をもとめてMさんの暮らしから～		9/2	講師等	西野
兵庫県手をつなぐ育成会 R2 年度地域生活援助者養成講座「支援の基本」		9/7	講師	濱口
中筋公民館人権講座 障害の理解について～夢をもとめてMさんの暮らしから～		9/7	講師等	西野
曾根公民館人権講座 障害の理解について～夢をもとめてMさんの暮らしから～		9/28	講師等	西野
志方公民館 翔の会研修会 「障害者の高齢化の現状と今後について」		10/15	講師	濱口
まごろこケア研究センター職員研修 「虐待防止について」		10/26	講師	濱口
つつじの家 法人研修会「虐待防止について」		11/6	講師	濱口
高砂市虐待防止研修「虐待防止について」		11/9	補助	濱口
県立総合衛生学院介護福祉科 「一緒に考える障害者の暮らし」		11/30	講師	濱口
障害者サッカーチーム エスト「障害者の暮らしについて」		12/18	講師	濱口
野口公民館 家庭学級 「コロナ禍における支援について」		1/14	講師	濱口
いなみ野特別支援学校 進路研修「障害福祉サービスの利用について」		2/14	講師	濱口
第28回あかりの家事例研究会冊子 『未来を一緒に描く地域 相談支援』		3月	寄稿	藤田
機関誌『手をつなぐ』1月号 『親なき後も住み慣れた自宅での暮らしを継続する』		1月号	寄稿	濱口

2021(令和 3)年度

高砂市障がい者基幹相談支援センターみんと 事業報告書

2022.3.31 現在

みんとは、2020年11月より納豆工房2階に基幹センターを移転、専任の相談支援専門員2名で3年目の実践を積み上げた。ここに3年目の実践を報告する。総合相談の数で見ると、昨年より約200件増えている。基幹センターの認知が進んだ結果と思われる。相談内容で見ると、就労に関するものと、社会参加に関するものが特に多くなっている。新型コロナの影響を受け、就職先や余暇活動等が制限された結果、障害のある方は非常に生き辛い状態になっていると推測される。

2021(令和 3)年度 高砂市障がい者基幹相談支援センターみんと 4つの実践

I 総合相談

1 相談支援を行った障害(児)者の人数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
障がい者	身体障害	33	42	36	25	78	35	41	55	49	32	19	40	485
	重症心身障害	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
	知的障害	80	83	72	45	57	84	42	51	25	53	50	90	732
	精神障害	83	60	81	67	100	67	131	97	127	69	91	93	1066
	発達障害	5	32	39	26	67	24	28	38	9	44	36	49	397
	高次脳機能障害	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	その他	41	63	59	43	37	29	43	45	14	25	40	27	466
	小計	242	283	288	208	339	239	285	286	224	223	236	300	3153
障がい児	身体障害	0	0	0	0	2	5	21	38	10	7	5	1	89
	重症心身障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	知的障害	36	17	26	30	11	52	29	30	76	39	50	38	434
	精神障害	12	3	17	6	0	3	0	0	10	9	13	0	73
	発達障害	76	39	34	26	51	66	60	36	36	17	59	48	548
	高次脳機能障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	13	17	11	8	7	5	9	2	6	44	31	7	160
	小計	137	76	88	70	71	131	119	106	138	116	158	94	1304
合計	379	359	376	278	410	370	404	392	362	339	394	394	4457	

2 相談者種別

(件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
当事者	本人	67	84	105	58	97	104	89	67	91	80	58	95	995
	家族・親族	76	43	91	45	48	81	58	64	69	89	102	104	870
	障がい者団体	0	1	0	0	3	3	1	1	0	0	2	0	11
支援機関	相談支援事業所	69	74	53	37	78	44	89	86	55	63	67	48	763
	サービス事業所	45	58	38	40	80	54	51	50	45	32	64	52	609
	専門支援機関	23	28	13	11	18	11	21	36	21	14	28	16	240
市	障がい・地域福祉課	19	3	5	20	17	20	27	10	10	9	1	9	150
	高年介護課	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	生活福祉課	6	3	2	2	0	0	0	2	5	4	1	2	27
	その他の課	3	1	3	8	2	0	4	8	9	8	7	8	61
関係機関ほか	地域包括	5	3	8	3	11	6	3	9	2	0	3	0	53
	健康福祉事務所	0	2	3	1	0	0	1	3	4	1	2	10	27
	教育機関	18	13	24	10	11	11	11	4	27	11	19	8	167
	医療機関	3	7	8	11	9	5	10	8	9	5	6	7	88
	民生委員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	45	39	22	32	36	31	39	44	15	23	34	35	395
合計		379	359	376	278	410	370	404	392	362	339	394	394	4457

3 支援方法

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
訪問	13	7	8	9	9	13	10	5	6	6	11	8	105
来所相談 市役所相談室	19 3	8 2	20 4	10 1	20 4	6 1	16 2	16 3	13 0	15 2	14 2	14 0	171 24
同行	5	1	3	6	2	3	5	1	4	3	1	2	36
電話・FAX	248	251	262	201	304	233	274	262	239	210	228	243	2955
電子メール	81	87	73	41	70	114	94	96	77	97	132	119	1081
個別支援会議	7	3	4	4	3	1	0	5	8	1	2	3	41
関係機関との調整	2	0	3	0	1	0	1	2	0	0	0	0	9
その他	4	2	3	7	1	0	4	5	15	7	6	5	59
合計	379	359	376	278	410	370	404	392	362	339	394	394	4457

4 支援内容

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
① 福祉サービスの利用に関する支援	155	132	111	78	237	230	232	200	143	153	166	147	1984
② 障害や病状の理解に関する支援	20	20	36	17	13	17	21	50	25	20	27	31	297
③ 健康・医療に関する支援	35	50	46	37	32	23	25	21	17	22	11	41	360
④ 不安解消・情緒安定に関する支援	9	11	28	10	7	14	20	25	7	38	15	17	201
⑤ 保育・教育に関する支援	79	48	82	33	36	40	19	37	78	35	57	51	595
⑥ 家族関係・人間関係に関する支援	10	19	23	14	10	6	8	9	33	4	14	18	168
⑦ 家計・経済に関する支援	10	35	19	20	8	8	12	12	20	26	35	31	236
⑧ 生活技術に関する支援	9	0	1	5	20	0	0	8	6	9	10	9	77
⑨ 就労に関する支援	30	8	19	33	19	23	25	7	11	3	21	15	214
⑩ 社会参加・余暇活動に関する支援	3	2	8	7	0	3	8	7	9	13	4	5	69
⑪ 権利擁護に関する支援	11	8	0	4	10	3	29	11	11	10	12	24	133
⑫ その他（社会資源の活用など）	8	26	3	20	18	3	5	5	2	6	22	5	123
（内 訳）													0
介護保険に関すること		5	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	7
生活保護に関すること		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
虐待防止に関すること		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
成年後見制度に関すること		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	8	21	3	17	18	3	5	5	2	6	22	5	115
合 計	379	359	376	278	410	370	404	392	362	339	394	394	4457

II 相談支援体制の整備

高砂コンサルタを2か月毎に定期開催する。高砂コンサルタは平成29年6月に高砂市障がい者自立支援協議会で立ち上がったワーキングだ。コンサルタとは参加者みんなで名付けた名称で、スペイン語の「相談」という意味。相談支援専門員の自己研鑽、学び、繋がり場として、東播磨圏域障害者等相談支援コーディネーター一濱口氏をオブザーバーに迎え、相談支援専門員の資質向上を目的としたワーキングである。

1 開催月日と研修内容と出席人数

月日	議 題	会場・出席者	参 加 者
第 1 回 7/16	<p>○高砂市からのお願い(障がい福祉課:原田さん)</p> <p>○令和3年度障害福祉サービス等報酬改定について (東播磨圏域障害者等相談支援コーディネーター:濱口さん)</p> <p>○グループワーク</p> <p>資料:・相談支援ネットワーク 2021 年度定期総会「相談支援に未来はあるのか?その2」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質の高い相談支援を提供するための報酬体系の見直し ・令和3年度障害福祉サービス等報酬改定等に関する Q&A VOL.4、VOL.5 ・押印についての Q&A 	<p>ユーアイ帆っと センター1F 交流スペース 1・2・3 越田・川崎</p>	<p>○市内相談支援事業所 6ヶ所・11名</p> <p>○市外相談支援事業所 3ヶ所・3名</p> <p>○事務局:障がい・地域福祉課障害者支援係 2名</p> <p>合計 18名</p>
第 2 回 10/4	<p>○アンケート調査報告</p> <p>○法改正のお知らせ 医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律 (「障害者差別解消法」)</p> <p>○コロナ対応について</p> <p>○グループワーク 加算について</p> <p>資料:・伊丹市障害者地域自立支援協議会作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ連絡フローチャート ・新型コロナウイルス感染症に係る障害福祉サービス提供継続に伴う事業所の協力体制 ・厚生労働省「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」について ・障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の一部を改正する法律の概要 ・報酬改定 単価表 	<p>ユユーアイ帆 っとセンター1F 交流スペース 1・2・3 越田・川崎</p>	<p>○市内相談支援事業所 6ヶ所・11名</p> <p>○市外相談支援事業所 7ヶ所・7名</p> <p>○事務局:障がい・地域福祉課障害者支援係 2名</p> <p>合計 20名</p>
第 3 回 11/26	<p>○事業所案内(3 事業所) 買いもん行こカー、グループホーム RASIEL 放課後等デイサービスアベニール</p> <p>○グループワーク</p>	<p>ユーアイ帆っと センター1F 交流スペース 1・2・3</p>	<p>○市内相談支援事業所 6ヶ所・11名</p> <p>○市外相談支援事業所 7ヶ所・7名</p>

	「令和3年度 計画相談報酬改定加算確認表」の作成	越田・川崎	○事務局:障がい・地域福祉課障害者支援係 2名 合計 20名
第4回 3/29	○事業所紹介(2事業所) 就 B OLIVE、重度訪問看護 ホームケア土屋 ○高砂市より連絡(障がい福祉課:近藤係長) 短期入所の支給決定及び利用状況について ○研修「精神障害の方の支援について」 講師 訪問看護くらうん 代表取締役 春木 麻里さん、 訪問看護スタッフ 三藤 英次さん 資料:・令和4年度こころのケア相談日程表 ・成年後見支援検討会議日程表	WEB 会議 越田	○市内相談支援事業所 6ヶ所・12名 ○市外相談支援事業所 7ヶ所・7名 ○事務局:障がい・地域福祉課障害者支援係 1名 合計 20名

Ⅲ 権利擁護・虐待の防止

成年後見制度の相談は年間2件、成年後見検討会議で検討していただいた。

虐待の防止に関しては年間1件あり、高砂市障害者虐待防止センターと連携している。

権利擁護全般では年間28件受け付けた。高齢者、障がい者の権利を守るための支援策と地域のネットワークなどについてともに考える。

Ⅳ 障がい者自立支援協議会の参画

“だれもが、じぶんらしく、暮らせるまち”を基本理念とする高砂市福祉計画に基づいて構成されている協議会に参画し、地域の関係機関のネットワークづくりを推進する。

会議・活動	分類	参加者	実施日
全体会			2021.2 書面開催※
運営会議		越田	2021.4/15、12/6
専門部会	くらし部会	川崎	2021.6/11～18 書面開催※、8/5、10/7、12/3ドキュメンタリー映画上映「普通に死ぬ～いのちの自立～」、2/3WEB 会議※
	こども部会	越田	2021.5/18 WEB 会議、7/13、9/14 WEB 会議、11/9、2022.1/11
	課題抽出の会	越田・川崎	2021.4/9
	ヘルパー事業所連絡会	川崎	2021.8/19 開催中止※、9/30 開催中止※、11/11、2022.2/17WEB 会議※
	就労	越田	2021.10/29 WEB 会議※、11/4、11/25、12/17、2022/1/6、2/1、3/4WEB 会議※、3/22 ひまわり高砂取材、3/31 開催中止※

	こども事業所	越田	2021. 4/21 開催中止※、11/24、 2022. 2/15WEB 会議※
	保護者向けハンドブック作成	越田	2021. 6/17 開催中止※、7/5、8/3、 9/6 宿題、11/30、1/19、2/21WEB 会議 ※、3/7WEB 会議※
	防災手帳ワーキング	越田	2021.4/12、6/1、7/1、8/6
	医療的ケアワーキング	越田	2021.8/23 WEB 会議※、9/27 WEB 会議 ※、10/21WEB 会議※、11/29、12/16、 1/27 開催中止※、2/24WEB 会議※、 3/24
その他	本人会		新型コロナウイルス感染予防の為中止
	高砂ユニ	サッカー教室	新型コロナウイルス感染予防の為中止
	NAVI	映画上映会	越田・川崎 12/3「普通に死ぬ～命の自立～」

※新型コロナウイルス感染拡大を踏まえて開催中止等

以上

その他 研修会参加・研修講師

月/日	研修名	出席者(講師)
5/25	市町村担当者・基幹連絡会義 WEB 会議	越田・川崎
5/28	日弁連高齢者・障がい者権利擁護の集い WEB 研修	越田・川崎
6/18、6/24	親なき後のセミナー	越田(講師)
6/19	相談支援に未来はあるのか？その2 WEB 研修	越田・川崎
7/3	親亡き後のセミナー	越田(講師)
7/27	松陽高校定時制人権研修	越田(講師)
8/11	就業ネットワーク会議	越田
9/3	障害のある人の避難行動 WEB 研修	越田
9/13	盲ろう者理解セミナー	越田
11/18	人権研修	越田
11/19	基幹相談支援研修 WEB 研修	越田
12/17	東播磨圏域 医療的ケア児等コーディネーター連絡会	越田
12/21	精神障害者地域支援連絡会	越田
2/28	市町村担当者・基幹連絡会義 WEB 会議	越田
3/10	兵庫県相談支援専門コース別研修 WEB 会議	越田
3回/1年間	成年後見制度利用促進会議 10/7、11/24、2/14	越田
毎月/1年間	成年後見検討会議	越田
毎月/1年間	加古川雇用連絡調整会議	越田

以上